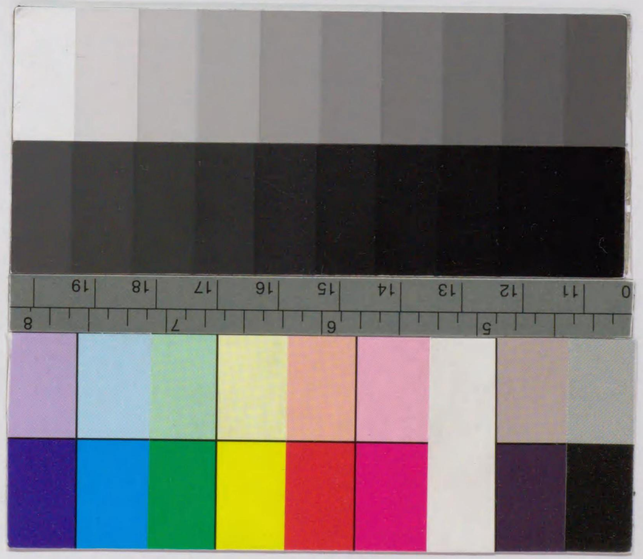
569-172
1200501517778
569
172



記内案真寫

日本南アルプスと大井川

記内案眞寫

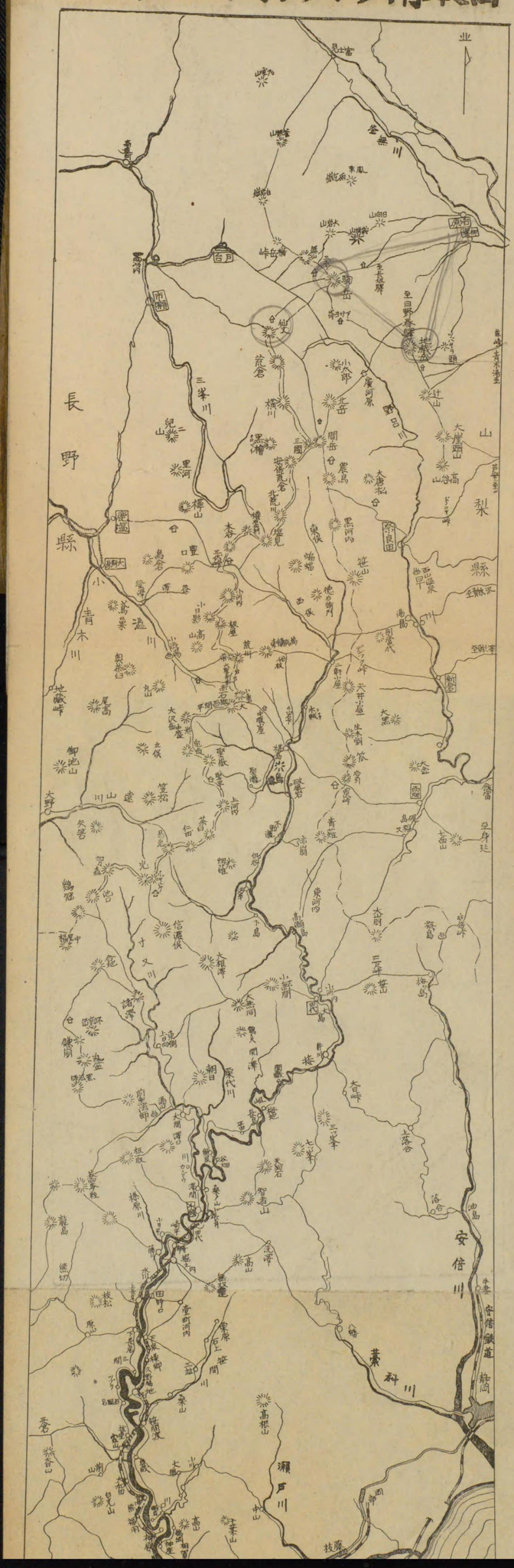
日本南アルプスと大井川

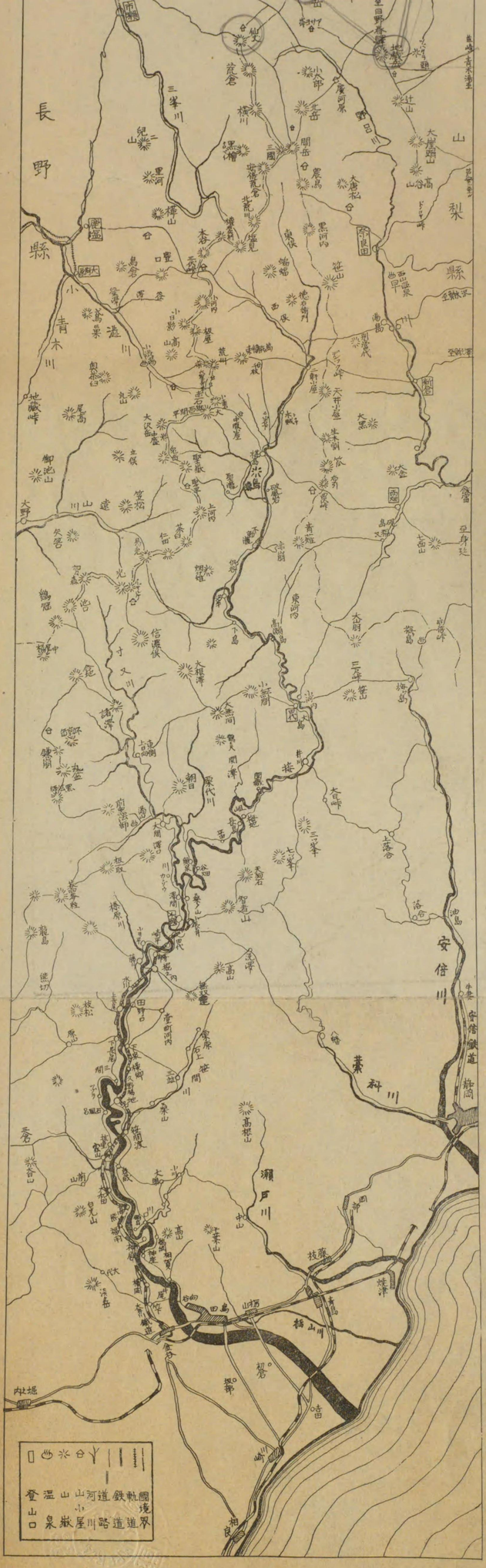
昭和四・七・大・贈・寄

發行所寄贈本

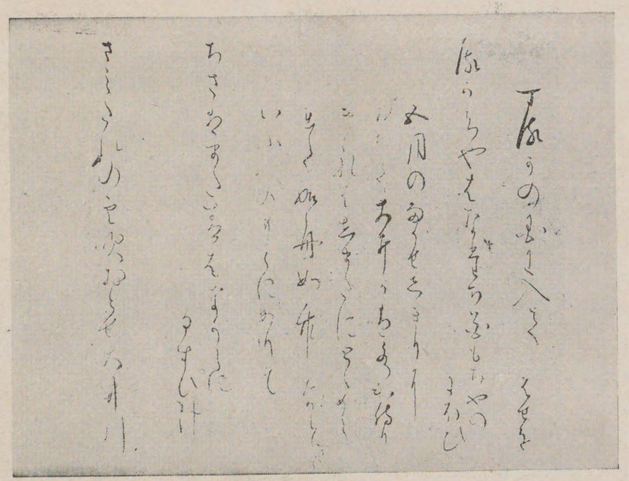
日本南アルプスと大井川

日本南アルプスと大井川




長野縣
山梨縣
安倍川
藁科川
瀬戸川
國境
軌道
鉄道
道路
河川
山小屋
山嶽
温泉
登山口

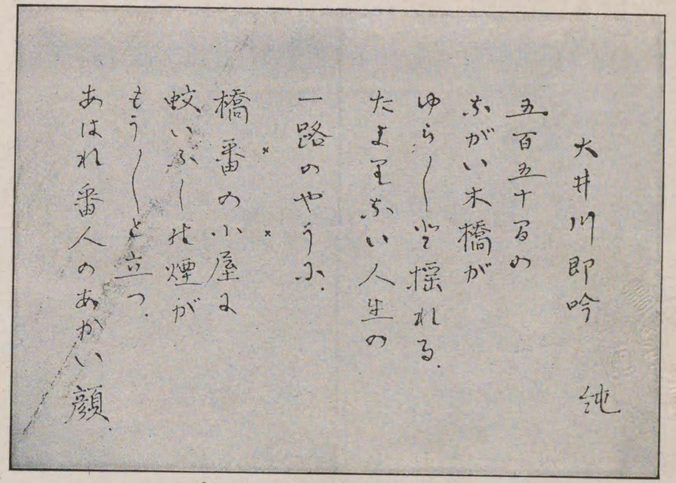
松尾芭蕉翁眞蹟



（島田　秋野三千雄氏藏）

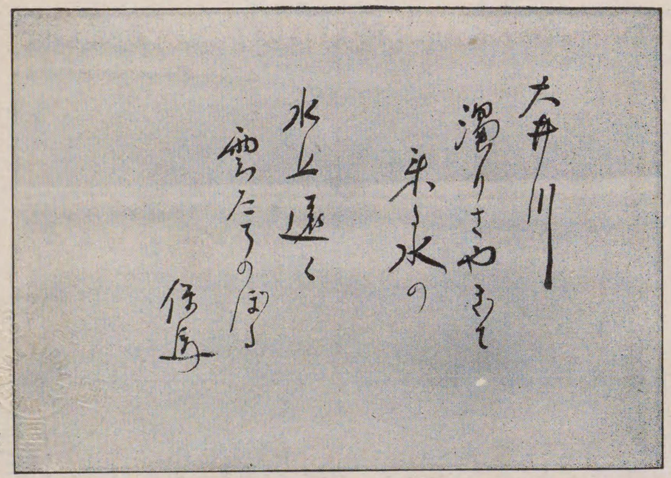
するがの國に入て　　はせを

するがぢやはなたち花もちやのにほひ
五月の雨かせしきりにおちて大井かは水出待り
ければしまだにとゞめられて如舟如竹などいふ
人のもとにありて
ちさはまだ青ばながらになすび汁
さみだれの雲吹おとせ大井川



（蘭契會藏）

生先純原石　士博學理



（蘭契會藏）

生先馬保田高　士博學文

島田町蓬萊橋附近にて即吟

（縮尺五割）

吉田絃二郎　殿谷小波　生先　生先

大井川

句の額面

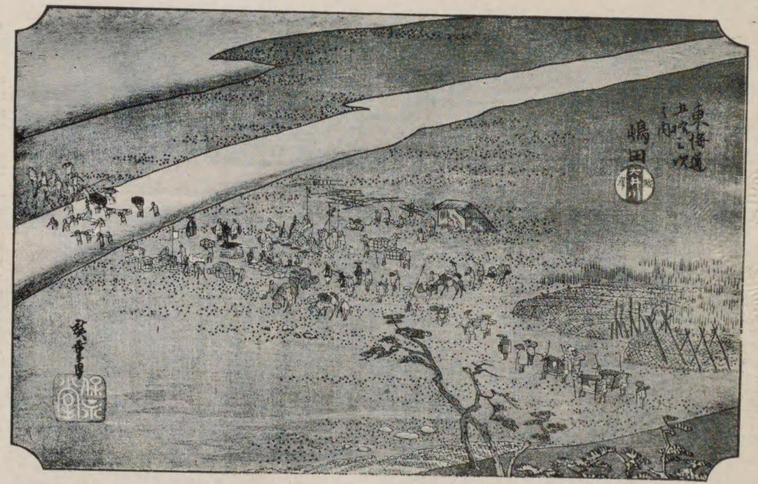
句の松の頭

國道　大井川架橋の賦　置鹽榮園先生

大井川架橋賦併序

大井川架橋賦併序

大井川架橋賦併序



（青島銅太郎氏藏）

島田大井川　廣重　（東海道五十三次の内）

569-172

はしがき

一、本會は嚮に秩父宮殿下御成婚奉祝の微衷を以つて八九兩月に亙り、日本南アルプスの一部を初め大井川沿岸の風光百五十餘ケ所を撮影し、其内代表的なもの五十葉を選擇して會員清水眞一氏是が引伸し謹製をなし宮家に奉獻した。處が近時登山家の興味が漸く日本南アルプス方面に向かつて來たのに、此の方面についての案内書が割合に少なく、登山家も不便であるし、古來大井川も東海道の難所であるといふことや、淨瑠璃「朝顏日記」に其名を知られてゐるのみで、其風光の明媚については少しも天下に知られてゐないから山の案内と川の紹介とを兼ねて百五十葉を資料として「大井川と日本南アルプス案内」を刊行する樣にと島田保勝會から頻りに勸められたので兎に角編輯だけは本會が引受けて發行に關することは一切保勝會に委任することにしたのである。

一、元來資料たる寫眞が此種の目的の爲めに撮影したもので無いから案内に適當であるかどうかが疑問であるのみでなく關係地域が靜岡、山梨、長野の三縣に亙り、地勢も複雜、交通も不便、編者自身が寸又川の上流や、甲州越へ、信州越へを未だ實地に踏査して居ない。殊に山水に關する知識が淺薄で案内記の編輯などとは實に自己を知らないものと笑はれるのは元より覺悟してのことであるが、萬一登山者を誤らしめることはあるまいかとそれが心痛に堪へない。

一、本案内記は大体前記の樣な事情に依つて編輯したもので、寫眞を主として記事を從とした爲め首尾の一貫前後の聯絡を欠いてゐるが、卷頭の地圖に依つて觀者自から聯絡をつ

けられんことを望む。

猶記事と寫眞と調和しないものや、重複してゐるものも出來てしまつたが、これは出版を急ぎ、寫眞版を見ないで自己の旅行記中から書抜いた部分もあるためである。記事の誤謬と脫漏も甚だ多いことであらうし、拙文到底其意を盡さず、觀者に滿足を與へ、且つ保勝會の希望に添ふことの出來ないことを非常に遺憾に思ひ、何卒諸賢の垂示により後日修正增補其全きを得ることのあらんことを冀つて止まないものである。

一、本案內揭載各町村狀況其他の資料は各町村役場及千頭帝室林野局出張所の親しく調査寄與されたもので、其の根據の確實を喜ぶと同時に其の厚意に對し感謝に堪へない。

一、本案內發行に就ては特に會員渡邊錠次郎氏の犧牲と努力とに負ふ處甚だ多く、井川以北撮影の際は東海紙料株式會社及大河原組、加藤商事會社等の案內に依つた事を感謝する。

一、寫眞の一部は知新寫眞部の撮影であり、他の大部分は紙屋寫眞部の撮影であることを附記する。

昭和三年十一月卽位大禮前旬日

編者　蘭契會

齋藤新右衛門記

再版發行について

一、日本南アルプス地方の案內と大井川の風光紹介との意味を以つて昨秋發行致しました本案內記は、其編纂甚だ粗漏杜撰極めて不備なものであつたにもかゝはらず、諸賢の御歡迎を受けまして、本年當初までに其の二千五百部、悉くを頒布し盡すことを得ました。就中縣當局の特別なる御取扱に依つて全國各大學、各專門學校、各高等學校、及本縣中等學校全部に、御寄贈下さいましたことは、關係者一同の最も肝銘に存ずる處であります。其の後引續き各方面から御紹介があるにかゝはらず、已に殘本が有りませんので折角の御希望に添ふことの出來ないのを甚だ遺憾に思つて居りました處、今回幸にも熱誠なる御援助によりまして再版發行の機を得ましたことは誠に感謝に堪へません。

一、再版發行につき表題を「日本南アルプスと大井川寫眞案內記」と改訂いたしましたが、これは本書の內容から見てこの表題の方が適當であるといふ諸賢の御意見に從つたものであります。

一、編者は再版發行までには甲州越や信州越をも實地に踏査し寸又川其他の寫眞版も充分に用意して修正大增補の上で再版を發行致し度いと考へて居たものであります。然し乍ら初版發行後は期嚴冬に當り、未だ其準備全くならず、極めて小部分の修正と增補とを行ひ再版を發行致すことは甚だ心苦しく存じて居る次第でありますが、それでも東海紙料株式會社の特別な御厚意によつて山上の寫眞版を加へ、中央大學山岳部幹事井上氏の御教示によつて誤記の訂正をなすことを得ましたのは聊か意を安んずるものであります。

一、本書初版發行の結果接岨峽や大井長瀞附近が新たに本縣名勝地の一に加へられることになりました。

これは本會の誠に光榮に存ずる處で本會の微志をお汲み下すつた本縣當局の方々に衷心御禮を申上げ、兼ねて本案内記發行に御援助下さいました方々に御報告致して此の喜びを分ちたいと存じます。

昭和四年五月

編者しるす

目次

日本南アルプスと大井川概説
聚落と距離
寫眞版
1、縣社大井神社
2、靜岡市清水山上より日本南アルプスの遠望
3、島田町驛前通り
4、金谷町城山公園の展望
5、朝顔目明の松
6、栃山川放水路六合橋附近
7、谷口（ヤゲチ）橋附近
8、蓬萊橋
9、大井川公園
10、向谷水門附近
11、大長村笹ヶ久保
12、赤松附近
13、五和村横岡港附近
14、居林（キバヤシ）附近の眺望
15、大長村白山神社
16、地藏峠の眺望
17、神尾（カモヲ）辨天附近
18、高熊おばがめ
19、大和田附近
20、身成より家山を望む
21、家山野守の池
22、笹間（ササマ）渡（ド）附近
23、鵜山新發電所附近
24、地名（ヂナ）の峠の展望
25、地名昭和橋
26、西地名の夕景
27、地名水神の森展望

28、横郷の茶園
29、下泉附近
30、上長尾附近
31、田野口附近
32、堀之内野志本
33、藤川萬世橋附近　一
34、仝　二
35、崎平の渡船
36、中、上川根村堺深澤附近
37、澤ン渡（サハド）の川原より大無間を望む
38、小長井の入口澤ン渡
39、小長井城趾の展望
40、小長井の朝
41、千頭の朝
42、筒（ツツ）ン澤（ザハ）
43、東川根より寸又川の出合を見る
44、小山發電所取入口附近
45、谷畑附近
46、奥泉赤石辻より小無間を見る
47、三ツ石附近の俯瞰
48、平田の夕景
49、長島不動の瀧
50、長島の枯木
51、梅地橋
52、接岨峽　一
53、仝　二　海久保（カイクボ）澤落　下流
54、仝　三　仝　上流
55、仝　四　閑藏下の釣橋
56、仝　五　閑藏上の釣橋上より上流を見る
57、仝　六　龍神の淵
58、仝　七　お花崩れ
59、仝　八　仝
60、仝　九　仝
61、仝　一〇　栗尾と閑藏の間
62、仝　一一　栗尾渡附近
63、仝　一二　源兵衛落し
64、仝　一三　仝
65、仝　一四　仝
66、仝　一五　青薙附近
67、仝　一六　接岨峽上の口
68、仝　一七　接岨口の七つ瀧
69、井川村井川
70、大日峠南方遠望
71、岩崎附近
72、大島の瀧
73、田代の聚落
74、上坂本
75、小河（コンガウ）内（チ）
76、田代の奥
77、蛇（ジヤ）の骨　一
78、仝　二
79、泣石附近
80、三つ石附近
81、高瀬（コツセン）島（ジマ）
82、明神の谷落（大井長瀞）　一
83、犬五郎澤（仝）　二
84、犬五郎澤（仝）　三
85、下（シモン）草履附近
86、下の島の山葵田
87、信濃俣河内
88、澤ン渡附近
89、蓬澤附近
90、唐木戸の瀧
91、龍眼崩附近

92、不動瀧附近 一
93、仝 二
94、中の宿附近の川狩
95、椛（サハラ）島
95、東岳登山道 一 奥西道より
97、仝 二
98、仝 三 千枚岳
99、仝 四
100、仝 五 千枚富士見平
101、仝 六 千枚小屋
102、仝 七 千枚岳
103、仝 八 千枚岳眺望 一
104、仝 九 仝 二
105、仝 一〇 仝 三
106、仝 一一 東岳 一
107、仝 一二 仝 二
108、仝 一三 仝 三
109、大聖寺平から赤石岳へ 一 小赤石から見た大赤石岳聖岳
110、仝 二 赤石岳の雪渓
111、仝 三 赤石岳頂上の眺望
112、赤石登山道 一 頂上より椛島へ
113、仝 二 赤石岳の御花畑
114、仝 三 下の小屋
115、仝 四 下の小屋より見たる聖岳
116、仝 五 板取山笈方面を望む
117、仝 六 鳥森背薙赤崩方面を望む
118、仝 七 仝
119、聖岳大瀧

大井川沿岸各町村狀況

戸數

人口
役場所在地
警察及駐在所
郵便局
學校
產業狀況
名地
旅館
道案内人
物價宿泊料其他

日本南アルプスと大井川概說

一、日本南アルプス

日本南アルプスとは赤石山系を稱するのであつて、其範圍は極めて廣く、靜岡、山梨、長野の三縣に跨り、赤石岳を主峰とする赤石山脈と、北岳を主峰とする白峯山脈と、甲斐駒ヶ岳を主峰とする甲斐駒ヶ岳山脈の三大山脈、相蝟集する所。大井、天龍、富士の三大川の水源地をなし、東方に秀麗世界に冠たる富士山を控へ、北方は斷層崖畦峙系魚川線を挾んで八ヶ岳に對し、西方は天龍川を隔てゝ木曾駒ヶ岳を主峰とする日本中央アルプスに對し、南は萬重の山々を起伏せしめて太平洋岸にまで其の勢を延ばして居る處の、秩父古生層岩（水成岩）によつて形成される本邦無比の大山系である。

日本南アルプスは日本北アルプスに比して高峻な山岳甚だ多く、北アルプスに於ては主峰槍ヶ岳（三、一七八米。本州第四位）穗高岳（三、一六〇米）御嶽（三、〇六三米）白馬（三、一六〇米）立山（三、〇一〇米）乘鞍（三、〇二六米）等あるに對して、南アルプスは、北岳（三、一九二米。本州第二位）間ノ嶽（三、一八九米。本州第三位）東岳（三、一四六米）赤石岳（三、一二〇米）荒川岳（三、〇八三米）仙丈岳（三、〇三三米）甕見岳（三、〇四七米）等を持つて居る。

日本北アルプスは山容露骨、峻險突兀として雪の多いのに比し、南アルプスは山容溫雅、樹木鬱蒼として雄大な中に、然かも峻嚴と祕奥とを備へ、裾野と稱すべきものなく、山々相依り相接し人跡未到の幽谷が甚だ多いので、近時漸く試みられる溪谷登攀には最も好適な所である。

登山家冠松次郎氏が其著立山群峰の序に於て、

「南方赤石山系に屬する、白峰、赤石の兩主脈が大井川の大溪を走し挾んで竝走してゐる壯觀と、北方飛彈山脈に於ける立山、後立山の兩大山脈が黑部川の深谷を隔てゝ相對峙して居る偉觀とは一少くとも日本內地の山岳景觀の雙璧であり、その頂點を爲すものである。」

と述べられて居るのを見ても、其の眞價を知ることが出來る。

(イ) 赤石山脈

赤石山脈は北端仙丈ヶ岳（三、〇三三の隆起から發して荒倉橫川となり、三國岳に於て白峰山脈間ノ嶽に近接し、再度相別れて安倍荒倉（二、六九三、北荒川（二、六九八、甕見（三、〇四七から東南方に蝙蝠の分脈を出し、西に折れて本谷岳（二、六五八を作り、こゝにて西北方に櫛山、黑河（二兒、を走らせ、小河內（二、八〇二、小日影（二、五〇五、板屋（二、六三六から荒川（三、〇八三に至り、左手に赤石山脈の最高峰東岳（惡澤岳）（三、一四六と千枚澤（二、八七九を提げて大聖寺平に一息入れ、小赤石、赤石（三、一二〇となる。赤石岳はその高さに於て稍劣るけれども山容自ら整ひ、小赤石を從へて立つた雄姿は流石に南アルプスの盟主たるに恥ぢない丈の風格を示して居る。百間平から大澤（二、八一九兎（二、七九九より奧茶臼と立俣の二脈を分けて南走し、聖（三、〇一一上河內（二、八〇二茶臼（二、六〇〇仁田（二、五二四易老（二、三五九となり、光岳（二、五九一に一力味して、信濃俣（二、三三二大根澤（二、二三九大無間（二、三二九小無間（二、一五〇鶴ノ天方面に大支脈を出し、大井川を接岨峽に壓迫せしめ、主勢を西北に轉じて加々森（二、四一九となり、更に南轉して池口（二、三七六鷲冠（二、二四八中尾根、合地、不動丸盆（二、〇六八

黒法師二、〇六七板取、蕎麥粒、龍馬から、途々西方に小支脈を派して天龍以東の地を約しつゝ更に南下し、多數の支脈に分れ山勢漸く散じて、大日山、白光山、粟ケ岳等の起伏を見せ榛原小笠の臺地に終るのである。

（ロ）、白峰山脈

白峰山脈は、甲斐駒ケ岳山脈と、赤石山脈とに東西から壓せられて、裾を引くの余地無く、脈中に高峻富士につぐ樣な山を多く持つて居る。この山脈は最北、小太郎二、七二五に勢を起して直ちに本州第二位の間ノ嶽三、一八九農鳥三、〇二六を立たしめ、一路南進大井川東側の屏風をなして廣河内、大籠（オホゴモリ）、白河内二、八一二黒河内二、七一八白剝山（笹山、二、二三七別當代二、二一五から轉着（デンツク）となり、猶南下して保利澤、堰松尾、生木割、笊二、六二〇青薙二、四〇六に至つて西南に支脈を殘し主勢東南に轉じ、大崩二、〇一四に勢力を二分し一派は更に東方に延びて、安倍峠方面から安倍川東岸を約して南進し、眞富士一、三四三龍爪文珠一、〇四一を立たしめて靜岡市以東の地を占め、大崩から南走したものは笹山一、七六三勘行一、四五〇大日峠三つ峰一、三五〇七ツ峰一、五三三等を起して本脈は大井川に添つて、尙南下し途々安倍川方面に多數の支脈を派しつゝ天狗石一、三六六智者一、〇九二洗澤峠高山一、〇九五、無双連山一、〇八三から地名後方高地に止まり、洗澤よりの支脈は南進して高根山、菩提山等を立てその先端は延びて志太平野に至つて止むのである。

（ハ）、甲斐駒ケ岳山脈

甲斐駒ケ岳山脈は、甲斐駒ケ岳を主峰とする。此の山脈は西及南を赤石、白峰の二大山脈に壓せられ、北を諏訪韮崎の大斷層崖に遮斷され、東を甲府盆地に仕切られて入笠山一、九五五釜無山二、一一七邊の高原に發して、白岩二、二六七鋸二、六〇七附近に於て鳳來、雨乞二、〇三七大岩二、三一九日向山一、六六〇鞍掛二、〇四七等の群峯を吸合して本山脈の主峰二、九六六の駒ケ岳を擁立し、南してアサヨ二、七九九から東南に進み、高嶺二、七七九地藏ケ岳から燕頭（ツバクラアタマ）を東方に張出し鳳凰山（觀音ケ岳）二、八四一藥師、辻山二、五八五に灣曲して甘利、御所、千頭星山を韮崎方面に備へ、猶南下して大崖頭（オホガシアタマ）二、一八六となり、これより一氣に南進して、高谷二、一八六ドノコヤ峠、奥仙重、西山峠、丸山一、九一〇源氏山一、八二六、十谷峠、御殿山一、六七〇から富士見山一、六四〇を先衛として早川に切られてゐるのである。

二、登山口

1、南方登山口

（イ）、井川田代口

赤石山脈赤石、荒川、東信濃俣は勿論白峯山脈各方面縱走、横斷に對する南方の關門であつて、

◎靜岡道

靜岡市井ノ宮から安倍鐵道の便を借り、牛妻にて自動車に乘り換へ、通常六番と稱する玉機橋の畔にて下車、橋を渡り中河内川に添ひて、上落合より口坂本、大日峠を越え、井川、田代に到る。通常これは一日の行程である。

◎島田金谷道

大井川沿岸を遡る者は島田、金谷を早朝出發して堀之内邊に一泊、翌日千頭小長井より接岨峽を探勝して夕刻井川に到着する事が出來る。通常これは二日の行程である。

(ロ)、千　頭　口

◎島田金谷道

赤石山脈の南部、千頭山御料林、寸又川の溪谷方面への登山口である。島田、金谷から一日の徒歩の行程としては稍困難であるが夏季日の永い時には行けない事もない。家山まで飛航艇又は大井川鐵道、乘合自動車等の便を借りれば甚だ容易である。猶大井川鐵道は一兩年中に豫定線完成し、金谷、小長井間を數時間に短縮せんとしてゐる。

◎靜　岡　道

靜岡方面からは藁科橋の畔から乘合自動車の便を借り八幡で事を捨て、洗澤峠に一汗流せば比較的樂々と千頭小長井に達することが出來る。

(ハ)、大井川下り

靜岡方面より赤石に登山した者は勿論、甲州信州から日本南アルプスの横斷縱走を試みて南方に下山した者は田代又は井川を出發して接嶋峽を經て千頭小長井に一泊、翌朝下り舟を利用して大井川下りをなす時は急流一瀉の快と兩岸風光の恥美とを擅にして午后二三時頃には島田町向谷に着く事が出來る。下り舟は千頭以下に於ては靡をかければ何處でも止めて便乘を許し、賃銀は千頭島田間が一圓位ひである。

2、東方登山口

(イ)、雨畑口、新倉口、湯島口、西山口、白峰、赤石方面。

中央線甲府驛にて富士身延鐵道に乘換へ鰍澤にて下車、鰍澤より湯島、西山溫泉まで約七里。

(ロ)、韮崎口、芦安口、鳳凰山、白峰方面

芦安は龍王驛にて下車すれば約二里。

(ハ)、臺ヶ原口、柳原口、甲斐岳、白峰、赤石各山脈方面

中央線日野春驛下車、釜無川を渡りて約一里、臺ヶ原柳原に到る。

山梨縣方面は登山道が早く開けたから各登山口には、夫々組合案內事務所等が完備して非常に便利である。

3、西　方　登　山　口

(イ)、戸臺口、駒ヶ岳山脈及仙丈岳方面

中央線辰野驛にて伊那電鐵に乘り換へ高遠町に至りそれより四里戸臺に着す。

(ロ)、大河原口、赤石山脈方面

辰野驛より伊那電鐵により大島に至り大島より約七里、大河原に着す、大河原には案內事務所がある。

(ハ)、滿島口。赤石山脈方面

辰野驛より伊那電鐵にて飯田に到り、時又より天龍川を下り滿島に至る。滿島は遠山川上流の探勝口である。

三、大　井　川

南アルプス山系中、赤石山脈と白峰山脈とに挾まれて南流するものを大井川といふ。間の嶽三國岳附近東俣に其の源を發し、北俣、中俣、西俣、千枚谷、奥西河內、赤石澤、倉澤、聖澤等に南アルプス各峰の雪溪を合して、上河內、仁田澤、信濃俣河內、東河內、小河內に萬古斧鉞を加へざる大密林の下鑛を集め一路南造、接嶋峽に奔激して濁流と化し、關の澤及び本川の最大支流たる寸又川の淸流を合せ、榛原川、笹間川等を入れて行く〳〵その勢を增大し、志太、榛原の沃野を濕ほして遂に駿河灣に注ぐ。其の延長實に四十五里と稱せられる。

古來、大井川は水流急峻にして渡渉の難を以つて海內無双と

稱へられ「箱根八里は馬でも越すが越すに越されぬ大井川」といふ俗謠や淨瑠璃「道中朝顏日記」によつて甚だ人々に親しまれた川である。

然し乍ら此の川の風光に至つては今まで全く世間に知られて居なかつたが近頃は追々人にも知られ、北アルプスに於ける黑部溪谷に比すべきものであることは已に識者の間には定評のある處である。

聚落と距離

靜岡縣島田町

◎島田驛と東西都市

各驛に到る哩數　三等賃金

		哩	哩	円
◉東方	東京	一三六・三	—	二・九三
	横濱	一一八・一	—	二・六三
	大船	一〇七・五	—	二・四四
	國府津	八八・一	—	二・〇七
	沼津	五〇・七	—	一・二八
	富士	三八・三	—	・九八
	靜岡	一七・六	—	・四五
◉西方	大阪	二一六・九	—	四・二四
	京都	一九〇・一	—	三・八五
	大垣	一二五・八	—	二・七五
	岐阜	一一七・一	—	二・六一
	名古屋	九八・三	—	二・二八
	豊橋	五三・四	—	一・三四
	濱松	三〇・六	—	・七八

◎島田驛と附近町村

▼川崎方面乘合自動車　本線汽車發着時間毎に　仝

▼藤枝青島方面仝　仝

▼金谷方面　仝

但金谷島田間は乘合自動車經營二會社あり。大井川鐵道と連絡す　賃十錢

向谷方面　本線汽車發着毎に自動車及馬車の便あり。

自動車　十錢　馬車　五錢

◎島田驛より（｜は大井川沿岸本道、｜は支道）

▼島田驛｜三町｜大井神社
▼大井神社｜二〇町｜向谷｜河伯神社｜二町｜大長村笹ヶ久保
▼大井神社｜一八町｜大井川國道鐵橋｜一〇町｜金谷町横町

榛原郡金谷町

▼金谷驛｜一〇町｜横町｜一六町｜五和村堺
▼大井川國道鐵橋｜一〇町｜横町
▼金谷驛｜一五町｜牧之原
▼金谷町天王前｜一五町｜初倉村鎌塚
▼金谷驛より川崎、相良、初倉、五和、島田方面乘合自動車の便がある。
▼金谷驛は大井川鐵道分岐點である、

志太郡大長村

▼島田町向谷｜五町｜大鳥笹ヶ久保一一八戸｜一〇町｜赤松の鼻｜五町｜相賀渡口（ドゲチ）一八九戸｜二〇町｜神座一九二戸｜二〇町｜鵜網三〇戸｜一九町｜伊久身村川口
▼相賀渡口｜一里二〇町｜檜峠
▼相賀渡口｜二〇町｜高山白山神社

榛原郡五和村

▼金谷町横町｜二〇町｜竹ノ下九九戸｜一六町｜横岡一三五戸｜一八町｜居林一戸｜二六町｜地藏峠二戸｜二五町｜福用｜四八戸｜八町｜北欠戸（キタガイド）七戸｜一〇町｜高熊四二戸｜下川根村大和田
▼五和村横岡｜一里一八町｜神尾（カモチ）（地藏峠）
▼岸九戸｜一里二〇町｜白光山、白光神社｜大垂瀧・細垂瀧
▼牛尾一四七戸｜島田町向谷より渡船がある。
▼日切地藏入口及横町五和入口まで島田驛より乘合自動車一人十五錢

志太郡伊久身村

▼志太郡大長村鵜網（タンバラ）｜一八町｜川口五〇戸｜一八町｜鍋島三〇戸｜三〇町｜丹原五戸（別道）川口｜三六町｜丹原
▼丹原｜一五町｜久奈平一〇戸｜一五町｜渡島（ドジマ）二二戸｜八町｜原八坂三五戸、身成小學校｜五町｜堀之内二二戸｜二〇町｜笹間渡（ササマド）三五戸｜一里一〇町｜德山村地名
▼川口｜一八町｜長島三〇戸
▼川口｜一里｜犬間四一戸｜二〇町｜小川八五戸｜一里半｜瀬戸谷村中山
▼身成小學校｜四五町｜犬間
▼笹間渡｜一里半｜笹間村桑ノ山

榛原郡下川根村

▼榛原郡九和村高熊｜一里｜大和田二〇戸｜一九町｜家山三八〇戸
▼島田町向谷｜飛航艇二時間｜家山
▼志太郡伊久身村身成（メクリ）｜渡船｜家山
▼家山｜一五町｜拔里（ツヅラ）一六〇戸｜二八町｜石風呂四〇戸｜一九町｜葛籠三〇戸｜中川根村久野脇
▼石風呂｜釣橋｜志太郡德山村地名
▼家山｜一五町｜栃下一一戸｜一里｜鹽本一七戸｜一九町｜市尾三六戸｜一九町｜大日山金剛院
▼市尾｜二八町｜周智郡三倉村
▼越地二三戸、切山一〇戸、禰宜（ネギ）島九戸、前山一九戸
市井平八戸、倉平一〇戸、峰　二二戸、湯島一三戸

志太郡德山村

▼榛原郡下川根村家山｜一里二〇町｜地名一四三戸
▼伊久身村笹間渡｜一里一〇町｜地名
▼地名｜一里｜横鄕（ヨコゴウ）一一戸｜一五町｜下泉六七戸｜一里五町

―田野口六九戸―一里三町―堀之内二一八戸―一〇町―東川根村澤間―青部

▼田野口―一里―一町河内二七戸

▼堀之内―二〇町萬世橋―中川根村藤川

▼堀之内―一里二〇町―高山（静岡道）

志太郡東川根村

▼志太郡德山村堀之内―一〇町―澤間六戸―五町―青部五一戸―五町（渡船）―榛原郡上川根崎平―釣橋―柳瀬七戸―（青部より東岸の道を取りても柳瀬に至ることを得、約二〇町）―峠五町―田代七一戸

▼田代―一〇町―上岸三五戸

▼田代―三〇町―坂京

▼田代―五町―三盃八戸

▼田代―一〇町―釣橋―千頭

▼田代―一〇町―小長井一一四戸―二〇町―桑野山四〇戸―一里二〇町―上川根村小山發電所―一六町―谷畑一一戸―二町釣橋―上川根村奥泉―赤石辻（ヒランダ）―平田―長島―梅地

▼梅地三〇戸―三〇町（峠）―海久保（カイクボ）三戸―二〇町―栗尾三戸―一里一八町―安倍郡井川村井川（島和合）

▼小長井―二〇町―平栗一六戸―三〇町―智者山（智者山神社）

▼小長井―二里一八町―天狗石山

▼小長井―二里二〇町―洗澤峠（静岡へ凡ソ一〇里）

△桑野山―一里―川井一戸、前山一五戸

榛原郡中川根村

▼下川根村葛籠―三〇町―久野脇五二戸（地名―五町、渡船久野脇―三町―三ツ間三八戸―五町―平谷

▼三ツ間―一〇町―瀬澤五九戸―七町―下長尾五三戸―高手山三三戸

▼下長尾―二〇町―高郷、梅島、上長尾、二五八戸―二二町―水川九八戸―二五町―藤川、小井平、一九二戸（藤川五町榛原川を渡り小井平）

▼瀬澤―三二町―向井二八戸―三町―久保尾三二戸（原山二八戸）―三〇町―尾呂久保

▼上長尾より周智郡熊切村へ三里、春埜山へ五里

榛原郡上川根村

▼榛原郡中川根村小井平―三〇町―崎平六一戸―一二町―富澤一〇戸

▼崎平―一六町―志太郡東川根村田代―一二町―千頭（センヅ）一〇四戸、三ツ野三戸

▼田代―千代橋―桑之實平―千頭

▼千頭―一四町―澤間二八戸―東川根村桑野山―一里（長坂）

小山一八戸

▼澤間―一五町―土本（ドモト）三戸―二五町―奥泉（近道）

▼小山―峠釣橋―東川根村谷畑―釣橋（此間凡一〇町）―奥泉四三戸―一〇町―赤石辻―二里半―平田（ヒランダ）九戸、唐澤二戸―一八町―長島二八戸、犬間四戸（犬間とは平田、唐澤、犬間長島を總稱することもあり）―釣橋―東川根村梅地

▼千頭―二里―板取山

▼澤間―一里半―澤口山

▼寸又川方面

澤間―一里―池ノ谷三戸―五町―閑藏三戸―三町―吉木―二里―大間三二戸―二〇町―湯山一〇戸―大間―二里―上閑藏東側九戸―一里―上日向

▼奥泉―二里―大間

▼大間―一里―朝日岳

▼大間―四里―大無間

▼長島―一里半―天狗石山

八木二一戸

安倍郡井川村

▼志太郡東川根村栗生―一里半―島和合一八戸―一〇町―井川二〇〇戸―一里―中山二〇戸―半里―大島二八戸―半里―田代五五戸―半里―小河内(コゴウチ)四二戸―三里半―下ノ島(シタノシマ)(夏季のみ居住一戸)―一里―沼平(夏季ノミ居住二戸)―一里―伊谷(夏期ノミ居住一戸)―中ノ宿(夏季ノミ居住一戸)―二里―椹島(夏季ノミ居住一〇戸)―二里半―赤石岳

▼椹島―一里半―木賊(トクサ)―二里十二間小屋二戸―東京電燈發電所分水点―山梨縣湯島

▼田代―一里半―三尺峠―二里―梅ヶ島―身延方面

▼田代―一里半―小無間山―一里―大無間山―易老岳方面

▼井川閑藏一二戸

▼靜岡凡ソ一一里―大日峠―一里―井川

志太郡笹間村

▼伊久身村(笹間渡)―一里―桑野山二三戸―八町―日向七戸

三〇町―出本二一戸―二町―石上六四戸

▼石上―二里半―瀬戸谷村倉田

▼石上―三里―瀬戸谷村市之瀬

▼出本―二里―徳山村下泉

▼石上―一里半―笹間村栗原三七戸

大井川鐵道株式會社

資本金　三、〇〇〇、〇〇〇圓

株式數　六〇、〇〇〇株

營業狀況

一、島田町七丁目より新金谷間

乘合自動車兼營

一區

一、既成線金谷驛より五和村横岡まで昭和二年竣成

長十五哩六分　賃二十四錢

一、豫定線

横岡、家山間　昭和四年度

家山、東川根村藤川間

昭和七年度

一區

一、下圖は乘合自動車運轉區間

一區　金五錢

◎島田町七丁目

◎大井川公園前

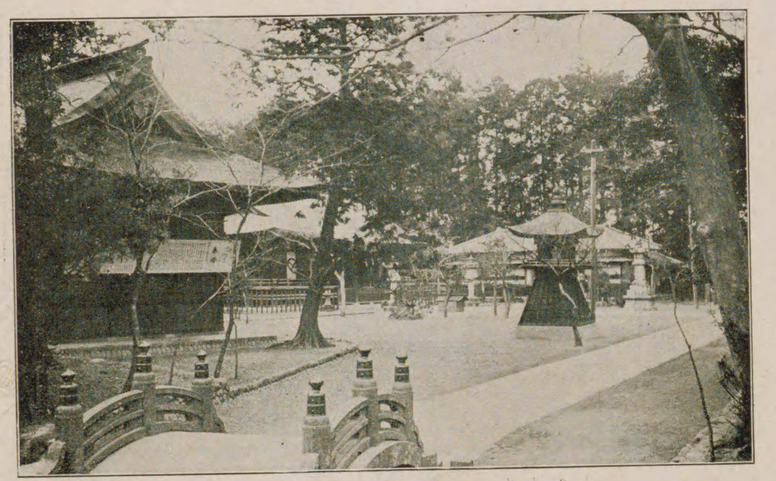
◎新金谷驛

大井川通船

島田町向谷より接嶋峡下の口、梅地まで
上り　引船、一週間　主として貨物運輸
下り　旅客便乗大井川下り（途中靡をかければ何處でも止める）
（千頭―六、七時間―島田町向谷、「賃金一圓位」）

大井川飛航艇

上り　島田町向谷―二時間―下川根村家山賃一圓九十五錢
下り　下川根村家山―一時間半―島田町向谷　賃七十五錢
一日　二回往復



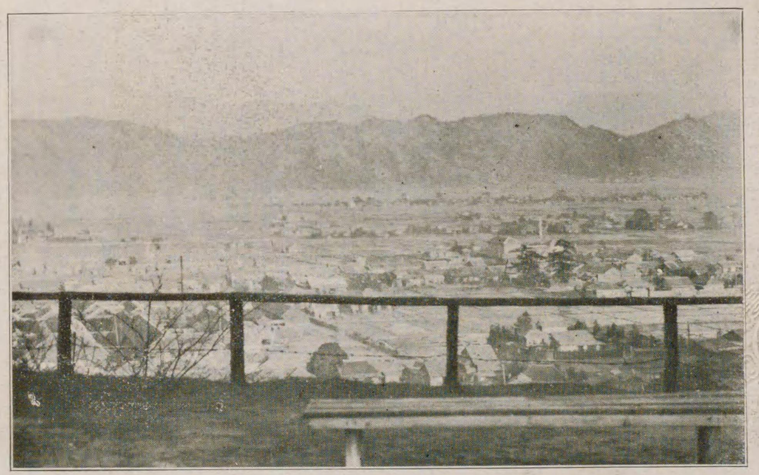
縣社　大井神社

（1）

島田驛から約三丁、川根街道と東海道の分れる處、蒼蒼たる森林の中に鎭座ましますが卽ち大井神社である。東海道を旅する者も、川根街道を行く者も共に社前を通らねばならぬ。祭神はなにがしの神々であると云ふが、其の本來は此地住民の生活に限りなき恩惠を與へる大井川を祀つたものであらねばならぬ。

史の志に　駿河國式外四社大井神社在志太郡、貞觀七年自正六位上加從五位下　とあるのは此の社である。今は正一位に列せられてゐる。

日本南アルプス諸峰は裾野を持たないが故にその雄姿を間近に寄つて仰望し得る處がない、然し富士につぐ高峻な山々であるから秋の終から春の初めまでは思ひの外遠望がきく、富士山から見える、秩父から見える、八ツケ岳から見える、中央アルプス一帶から見える、太平洋上遠州灘、駿河灣等からは最もよく見える、三州高師原でも見えれば遠州福田地方でも見える、志太の平野で見える、安倍川橋附近で見える、特に靜岡驛内の渡橋の窓やこの清水公園の山上から見える、白雪皚々たる冬の日本南アルプスの姿は實に素晴らしいものである。



（2）　靜岡市清水公園より日本南アルプスを望む

（3）　島田町停車場通

金谷町城山公園の展望

（4）

昔大井川のデルタ今の牧野原丘陵の開拓された谷間から大井川に向つた緩傾斜に發達した町が此の金谷である。往時は東海道の難所大井川と佐夜の中山とを前後に控へて隨分殷賑を極めた宿場であつた、今は大井川鐵道の分岐点でこれから大いに發展せんとしてゐる。この展望臺は戰國時代の諏訪山城跡で對岸島田町を初め、やゝ左手に起伏した群峰を壓して秀麗な富士の英姿を仰ぎ、右手に志太平野と駿河灣を隔てゝ遠く伊豆半島を望むことが出來る。

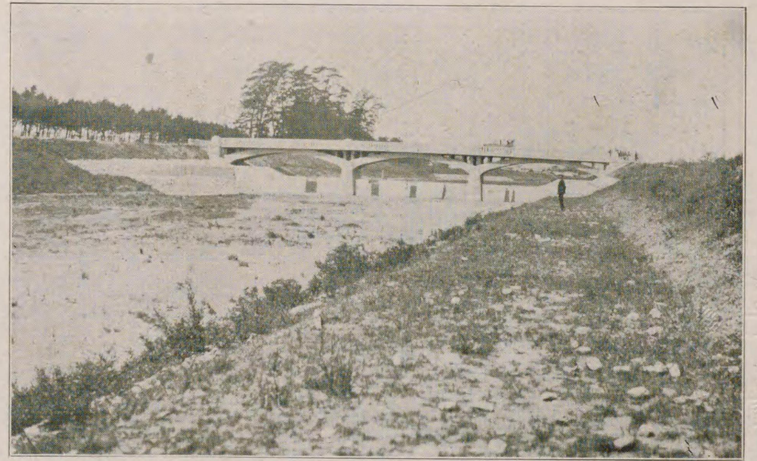
寫眞右側の茶園は牧野原三千町歩大茶園の一部である。

朝顔目明の松

（5）

島田町川原町舊東海道南側大井川舊堤上にあつて「古來朝顔目あきの松」と稱へられた稀有の老松である。義撲德右衞門の忠誠によつて開いた朝顔の眼に眞先きに見えたのがこの松だといふのである。昭和三年二月其の傍に立てた「朝顔の松」と題する碑は靜岡縣知事長谷川久一氏の筆である。

志太平野數ヶ町村に灌漑する主要な河川は千葉山を水源地とする栃山川であるが、年々洪濫の爲めに被害が甚しいので大正十五年から五ヶ年繼續經費五十萬圓を以つて六合村地先から大井川への放水路が造られた。これはその一部であつて前方の松林は大井川堤上の松並木である。



栃山川放水路六合橋附近

（6）

谷口橋附近

（7）

島田町から遠州、南部、相良、川崎に通ずる街道の一部であつて、河畔松林の下を過ぐる十餘町、大井川の名と共に嵐山を偲ぶ處。晩涼の快忘れ難いものがある。此處から河口まで約三里快晴の日は遠く伊豆の山々が見える。

大井川荒瀬流るゝ末見れば霞にけりな伊豆の遠山　右　岑

蓬　萊　橋　（8）

五百五十間のながい木橋が　ゆら〳〵と揺れる　たよりない人生の　一路のやうに。橋番の小屋に　蚊いぶしの煙がもう〳〵と立つ　あはれ番人のあかい顔。（二頁參照）

と石原博士が即吟されたのが此の蓬萊橋である。

前方對岸の山は　藻鹽草に
　打ち渡す幾瀬あまたの大井川　見えてぞ遠き初倉の山

と爲家卿の詠まれた初倉山の高臺である。

大　井　川　公　園　（9）

國道大井川鐵橋附近から上流向谷（ムクヤ）に至る間を大井川公園といふ小丘あり竹林あり松柏の老樹あり小徑その間を曲折し時に亭があつて休むことが出來る。就中河流に臨む大鐵橋を傍にした牧之原金谷方面淡ケ岳白光山等に對する處は眺望が甚だよい。

霞むなり橋長々と松の間（ヒマ）　巖谷小波

向谷水門附近

(10)

島田町向谷（ムクヤ）水神山下水門は島田町用水の取入口であつて且つ川根通船、大井川飛航艇の發着港である。附近の長堤は櫻花を以て名高く三四月爛漫たる頃は古の墨堤を思はせるものがある。

向谷水門入船出船お茶が降りれば酒がのる（島田音頭）

大長村笹ヶ久保附近

(11)

向谷水神山の切通しを行きつくすと俄かに眼界が開けて、大井川々狩の大貯木池のほとりへ出る。この附近を笹ヶ久保といつて大長村役場の所在地である。道は右手山添に赤松方面へ行く。

向谷水神山から歩して數町大長村赤松に至る。この邊大井川が山鼻に打ち着けて曲流する處、巉岩水に迫り激浪白雪を吹き甚だ壯快である。前方は同村楠（恵比壽の森）及榛原郡五和村神尾居林方面の山々である。

赤松附近は特殊な地層を有し、丹石、蛇紋石、石綿等が出る。松のひまから白帆が見えるあれは川根の上り船（島田晉頭）

赤松附近眺望

(12)

金谷町及五和方面から川根に登る者が初めて大井川に接するのは五和村横岡附近である。横岡は遠州側に於ける大井川の重要な港である。通船の停泊すること此の寫眞の通りである。

此の附近には古墳趾や陶窯趾などがあつて原史時代の遺跡に富む。

五和村横岡港附近

(13)

(14) 榛原郡五和村横岡から地藏峠に至る間の眺望

對岸は志太郡大長村神座である。北方遙かに萬重の山を望む時誰もが川根も又奥深い哉と云ふ感が湧くことであらう。遠州地を行くと此邊から山路に親しまねばならない。

下流を見ると牛尾山、赤松の鼻あたりから大井川の裾が開いて行くのが見えて、島田、金谷から程遠からぬ地點としては餘りにも清淨な眺ではある。

(15) 村社白山神社

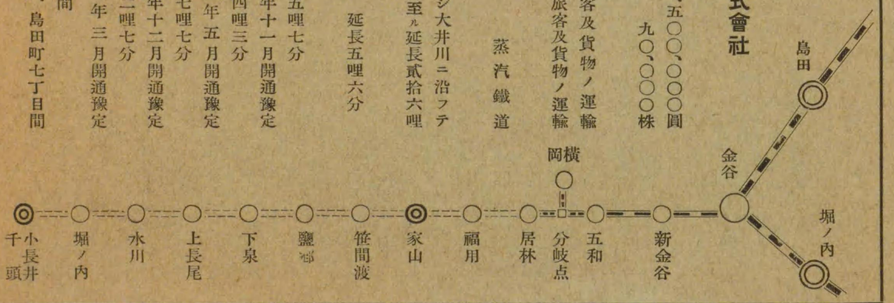
大長村相賀渡口から約一里、創立建久二年と傳へられる高山白山神社がある。永祿の頃今川氏の祈願所となり社領百六十石を寄附され德川時代に於ては二十二石を領した。近年まで當社は高山の山嶺にあつて崇嚴を極めた社殿を有したが今は山麓に遷座されて參拜には甚だ便利になつた。

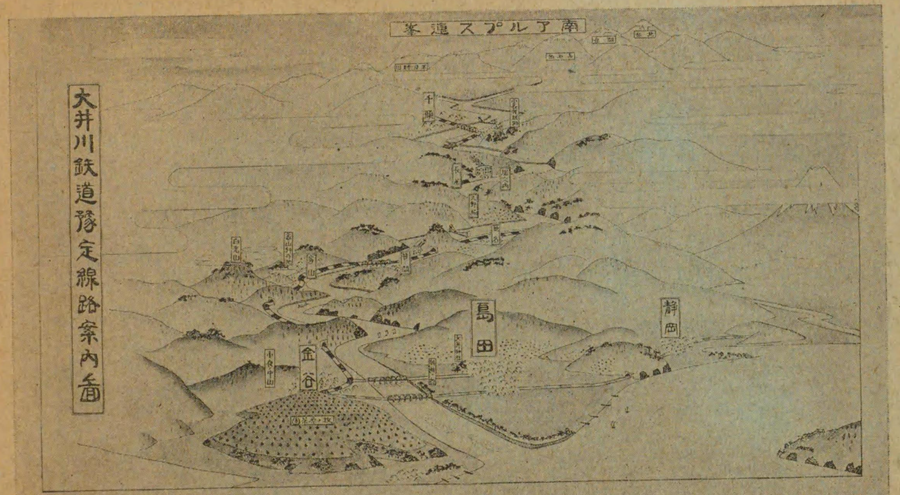
居林から大井川を下に見て山の中腹を縫つて進むこと二十町、道は峠の茶屋の前に至る。川根方面から來る人も、神座の渡しを越して來る人も、云ひ合はせた樣にこの煤けた、薄暗い峠の茶屋に寄る。そして澁茶に咽喉をうるほしたり、ポンと、ラムネの栓を拔いたりする。この峠は川根と川下の間の峠である。平野と山間の隔の峠である。下るものには川根の見納めの峠であり、上るものには平野見をさめの峠である。寫眞は峠の茶屋の前から神座横岡方面の遠望である。

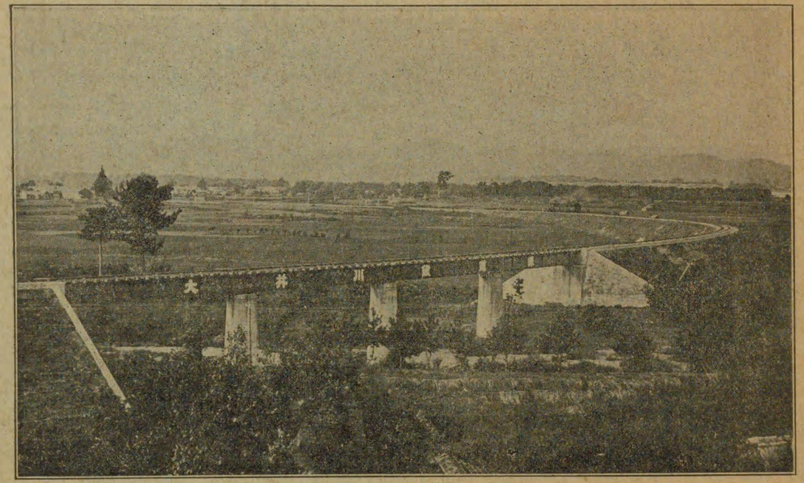
五和村地藏峠の遠望

大井川鐵道株式會社

資本金　四、五〇〇、〇〇〇圓
株式數　九〇、〇〇〇株
營業種別
本業　鐵道ニ依ル旅客及貨物ノ運輸
兼業　自動車ニ依ル旅客及貨物ノ運輸
鐵道ノ種別
軌間　三呎六吋　蒸汽鐵道
豫定線
省線金谷驛ヨリ分岐シ大井川ニ沿フテ上流ノ小長井、千頭ニ至ル延長貳拾六哩
既成線
金谷、横岡、居林間　延長五哩六分
未成線
居林、家山間　延長五哩七分
昭和四年十一月開通豫定
家山、鹽郷間　延長四哩三分
昭和五年五月開通豫定
鹽郷、堀之内間　延長七哩七分
昭和六年十二月開通豫定
堀之内終点間　延長二哩七分
昭和七年三月開通豫定
兼業ノ乘合自動車營業區間
新金谷、島田町七丁目間



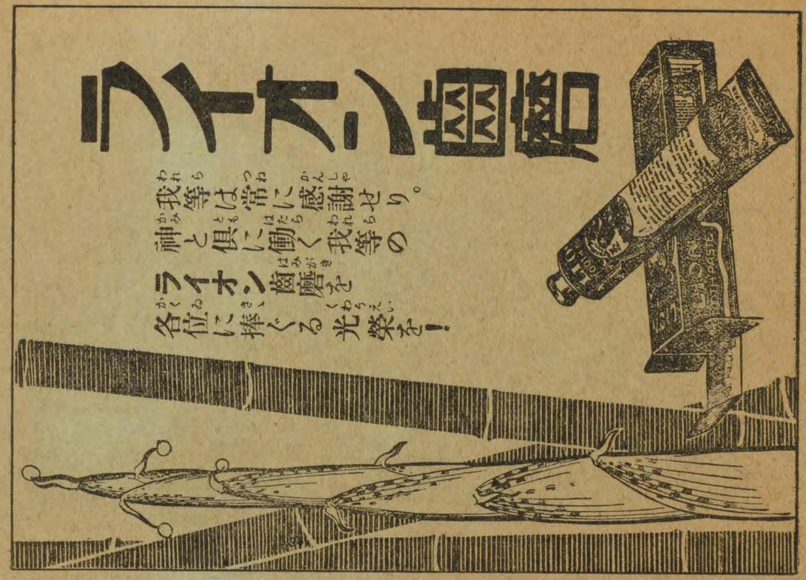


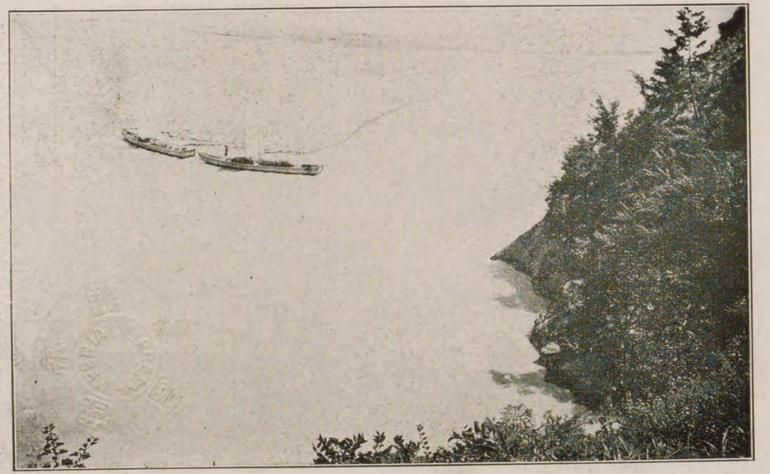


（東海道本線より見たる大井川鐵道線）

志太郡伊久身村川口より見たる神尾神社弁天島

大井川は急流なるが故に河中に島を止めない。其の數恐らくは四十五里中三四を出でないであらう。就中この神尾の弁天は川の中央にある事に依つて甚だ妙である。神尾の神が駿河へ渡る爲に置いた飛び石の様にも思はれる。前方の人家は大長村鵜網で大井川はこの邊を境として愈々山間に分け入るのである。折しも綱一筋に我を託して踏みしめ〳〵急がず、せかず引き行く舟人の川原の歩み。人の一生も亦かくこそあれとや。



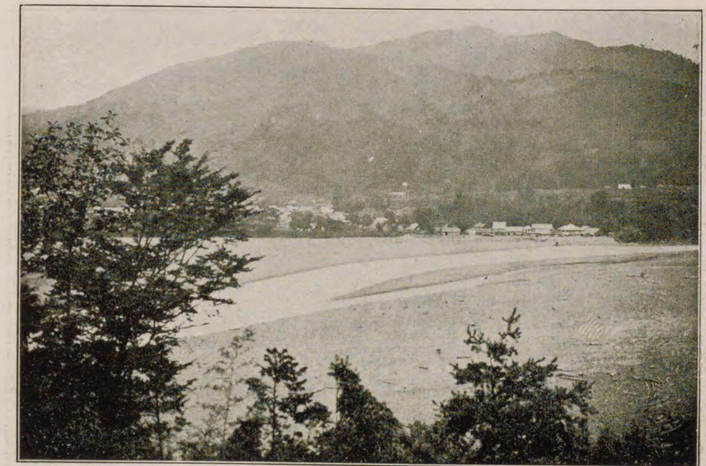


大和田附近

榛原郡五和村高熊（おばがめ附近）

近代文明の産んだ幾何學的直線型の道路は旅人にとつては甚だ無趣味なものである。この無趣味は平坦地に於て特に烈しいが河畔山間地等には時に此の「おばがめ」の様な所があることによつてその不満を補ふことが出來る。

石の流れる早瀬を越えて上る川根の引船よべばかけた白帆に茶がかほる。



志太郡伊久身村身成より家山を望む

(20)

家山は川根に於ける屈指の都であり、港である。旅館あり、料理店あり、藝妓屋あり、射的あり、實に山間の大都會である。上下の舟は必ず一度は此處に寄ることになつてゐる。向つて右方白色の屋根のあるあたりが舟の停泊所である。千頭からの下り船は大體こゝによつて晝食を取る旅人はその間に町を一周してくることが出來る。

榛原郡下川根村家山野守の池

(21)

物靜かな湖面、鬱蒼たる八幡の森、男體山を思はせる上の山、萍の中に浮つ沈みつするかいつぶり、岸の柳に巢くふ五位鷺の群。野守の池は女性野守の傳說と共に大井川四十五里沿岸中の一異彩である。

志太郡伊久身村笹間渡

(22)

笹間渡は笹間川が大井川に注ぐ處である、對岸の盆地は抜里で前方山脈の左端あたりが白光山で右端の方向が大日山である。大井川も川原の中に柳の小生えなどがあつて、川原蓬の繁つたりするのは此邊が終りである。

榛原郡下川根村鵜山

(23)

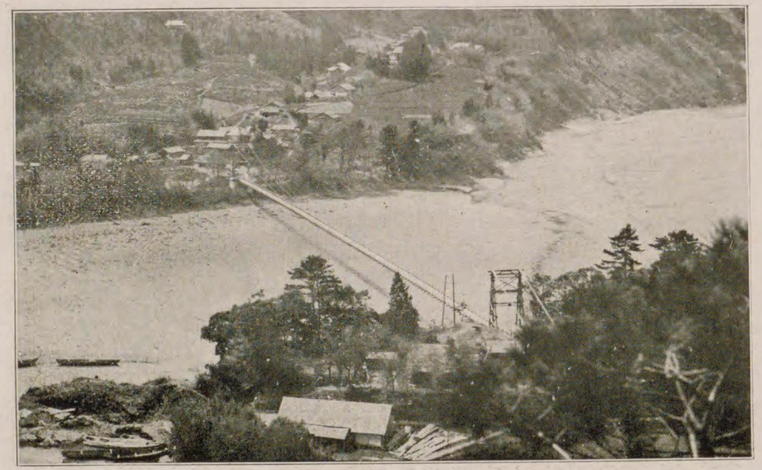
家山を出て約一里、この邊を七曲りといつて大井川が迂曲する處である。この邊は又鵜山ともいふ。山の形が鵜の水に臨む狀をして居るといふのである。今立つて居る地点はその鵜の翼あたりであらうか。

ア！　筏だ「下る筏を呼びとめて。」とでもいひたい。左方は目下工事中の東海紙料株式會社の新製需所である。

志太郡德山村地名の峠

(24)

笹間川を渡つてから長い峠にかゝる、この峠を登りつくすと風光が展開して地名が見える。左岸は下川根村石風呂で、右岸は地名と西地名である。その對岸は葛籠であつて遠く久野脇まで見える。



志太郡德山村地名昭和橋

(25)

家山から七曲の風光を賞しつゝ約一里半にして石風呂に到る。これから遠州地を進めば葛籠に到るのであるが、通常はこゝで駿河地の地に渡ることになつてゐる。數年前までは横越の渡船であつたが、今はこの昭和橋が竣成したので非常に便利になつた。これは地名方面から見た石風呂である。

雨後の谷々が吐き出す雲の風情は、旅情を慰めるもの丶一である。

これは地名の平の女芋といふ俚諺のある西地名の夕立後の風景で、對岸の人家は榛原郡下川根村葛籠である。

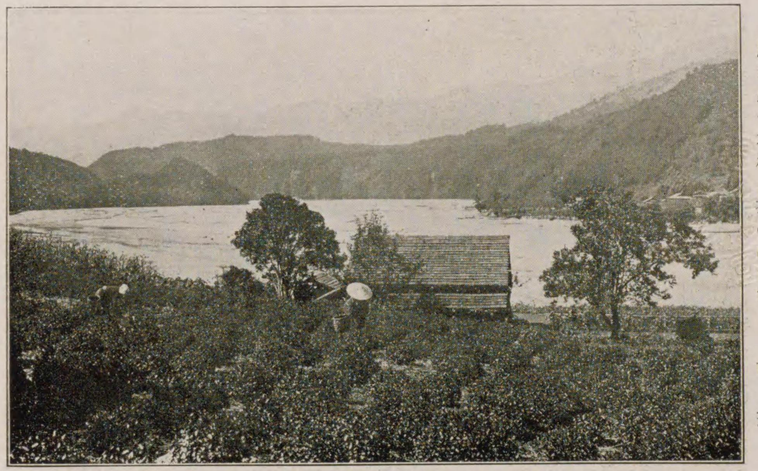
志太郡德山村地名

志太郡德山村水神の森

神尾峠以來久しく見なかつた北方重疊の山々を見るのにはこの水神の森展望臺が一番よい。

日本南アルプス連峰の南角を双眸に收めて地圖を開くことは旅行者としては快よいことこの上もないことである。

眼下の叢は稱して兎島といひ、對岸の聚落は中川根村久野脇といふ。



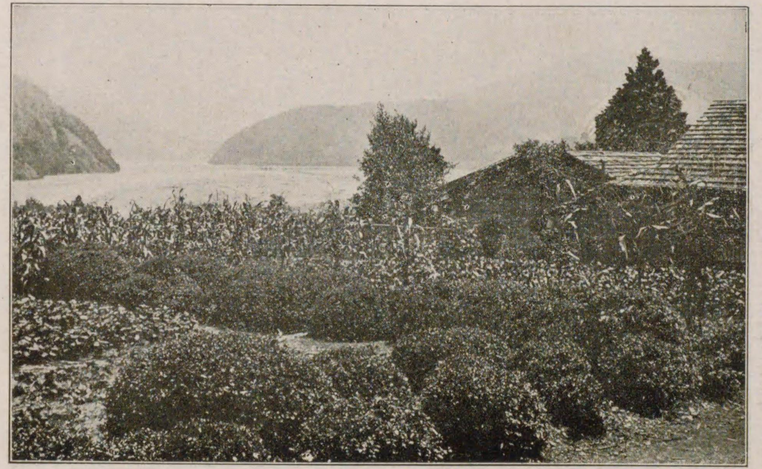
志太郡德山村横郷茶園より大井川の下流を見る

綠茶は靜岡縣が日本第一である。靜岡縣では此の川根の銘茶が第一である。川根は到る處茶園であつて、大井川の岸までも斯くの如く茶園の迫つてゐるのを見る。三四月の交、川下から吹いて來る太平洋黒潮の暖風と朝な朝な立ち罩める大井川の川霧とに孕まれて初めて川根獨特の香氣を持つ銘茶は出來るのである。

駿河路や花橘も茶のにほひ　芭蕉

志太郡德山村下泉

横郷方面から行くと一廻りして下泉に入らうとする手前の山の鼻は樹木鬱々として旅人の涼を取るに甚だ適當な處である。青年團の心いきか地人の心盡しか、二間程の腰掛のあることは實に嬉しいことである。足下は大井川の斷崖で枝さしのべた老椎の木の間から翠靜かに下る筏の船頭と相呼應することができる。



榛原郡中川根村上長尾より下流を望む

(30)

川根の遠州路を旅する者は必ず上長尾を過ぎねばならぬ。上長尾を過ぎる者は必ず一度智葉山千滿寺に杖を引かねばならぬ。それ程千滿寺は川根に於ける名刹で、山門に掲げられた阿眼法窟の大額を見上げるものはその由あるを知るであらう。山門を下つて上長尾の屋並に入らうとした處で、日に入るのがこの眺望である。寂然たる山里の眞晝の太陽が、人家の屋根にも、もろこしの葉にも、茶畑にも、牛蒡の葉にも、燦々と光を投げてゐる。

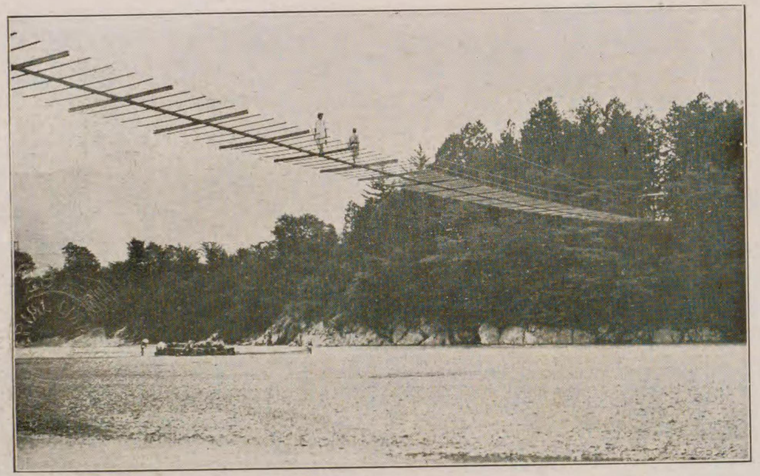
志太郡德山村田野口

(31)

田野口は德山村の略中央であらうか、極めて靜かな聚落である。この聚落に入らんとして山の鼻から振返つたのがこの眺望である。遙に見える左岸の突出は同村下泉で、右岸の突出は中川根村下長尾である。幾瀬にも分れた大井川の流れが、ゆつたりとして旅人の心をのびやかにする。つゝましやかな山里の乙女が、川下からのうれしい便りを人知れずまちわびるのもこの山の鼻である。

志太郡德山村堀之内野志本 (32)

野志本は堀之内の入口である。前方に見える人家は對岸榛原郡中川根村藤川で背後の山の間は榛原川の上流であり、その上流には銅山がある。密雲に閉された邊りが板取山であらう。堀之内には吉野朝の忠臣土岐氏の居城があつて足利氏を向ふに廻し、今川伊達の軍勢を相手に南朝の爲めに氣を吐いた處である。今立つてゐるこの道はその居城蹟の段の下を通るのである。



萬世橋附近 (其の一) (33)

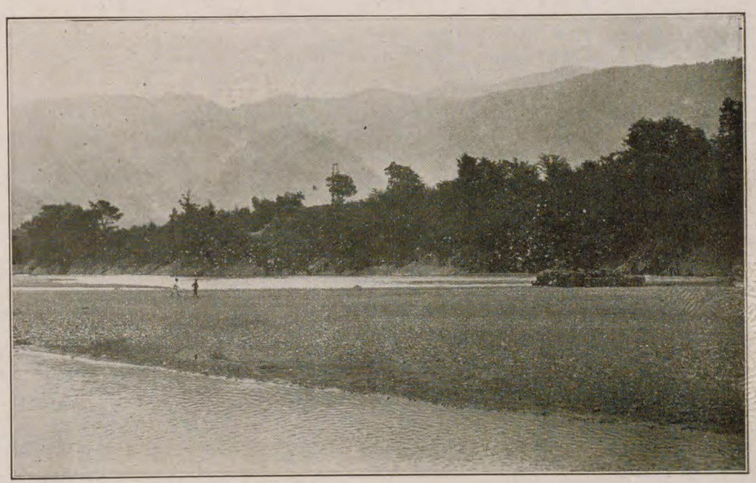
榛原郡中川根村藤川側から對岸志太郡德山村堀之内を望む、虹とかゝる此の釣橋を萬世橋といふ。長さに於ては川根第一と稱へられてゐる。

兩岸相近づき急流岩根を洗ひ、此邊を境として大井川の風光は又も一變化を來すのである。

榛原郡上川根村崎平渡船

(35)

堀之内から澤間（サハマ）といふ處を過ぎて廣い平地に下りる。そこを青部といふ。これは青部から上川根村の崎平へ渡る渡船で、崎平は左方約二町位の所にある。前方の山は清水峠の尾根である。



榛原郡中川根村藤川萬世橋　（其の二）

(34)

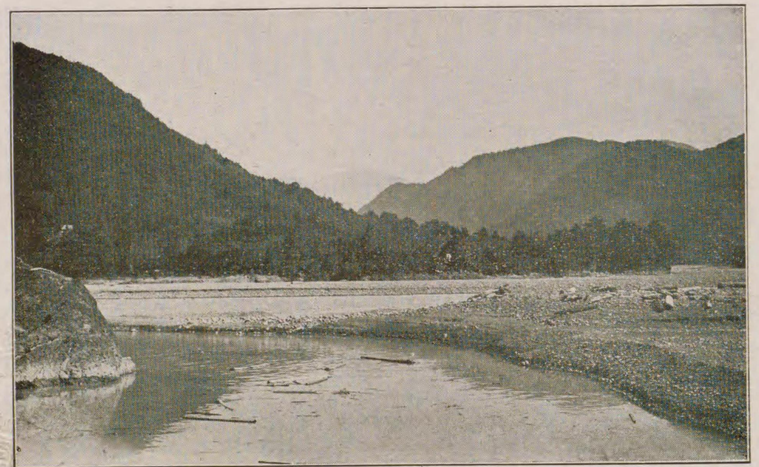
堀之内の背後の山々、桃澤（モモンザハ）から無双連山吉野朝時代の本城山城趾方面の遠望である。堀之内には大泉院といふ寺があつて千滿寺に劣らぬ川根の名刹である。堀之内は春景に實に捨て難いものがある。

千里鶯啼綠映紅
南朝四百八十寺
多少樓臺煙雨中

といふのは杜牧が此の堀之内を詩にしたなどさへ思はれる程である。

右方は小井平の森林前方夕煙の立つあたりは藤川、左方の突出は青部、澤間の森林である。樅の立木が山の深くなつたことを物語る様にも見える。あそこの谷、こゝの谷から這出でた暮色が、やがて川根全体を蒼然たる夜の幕に引き包んでしまふのであらう。

榛原郡上中川根村堺附近



田代から右手に道を取ると小長井に入る。すぐ手前で澤渡の渓流を渡りそこの大井川原に下りると、千頭の上に大無間が見える。流木の川原に横たはつてゐるのも大井川らしい感じがするではないか。

志太郡東川根村澤渡より大無間遠望

(38)

渡澤口入井長小村根川東郡太志

の岩巨方前は道、流溪の渡澤つ持を影面の谷岡もらがないさ小上にあるでのである。

(39)

東川根村小長井小學校臺地　小長井城趾よりの展望

小長井といふのは大字藤川の小字であるが、東川根村としては中心地で、戰國時代に小長井氏の居城のあつた所である。中央に見えるのは朝日岳で川根大橋を挾んで左は澤口山の尾根と上川根村千頭右は智者山の支脈と小長井の聚落である。

千頭照る〳〵小長井曇る
上（アテ）の平（ヒラグリ）粟雨が降る

濃霧のたてこめた小長井の川原の朝は物靜かである。背後で小長井の鷄が鳴く、そうして千頭の鷄が鳴く、又小長井で鳴き千頭でなく。川を隔てゝ呼びかはす鷄鳴、それも霧の立て籠めた大井川を中にして聲をたよりに鳴き交してゐる。やがて段々川霧が晴れて、模糊たる千頭の森も、人家も竹籔も畑も茶の木もそろ〳〵と見えはじめて來た。

(40)

志太郡東川根村小長井より對岸を見る

(41)

頭千村根川上郡原榛

呼を氣大の朝てしに前を渦の流濁い凄物ち立に頭岩の下館水清旭。るあでつーゝのもな快壯てつ取に者行旅根川はとこるす吸。時る躍の蛇金に流溪の岸對てしさらか端の山の面方澤洗が光。く行てけ明とのぼの徑が夜の山者智、栗平

(42)

澤ノ筒ノ井長小村根川東郡太志

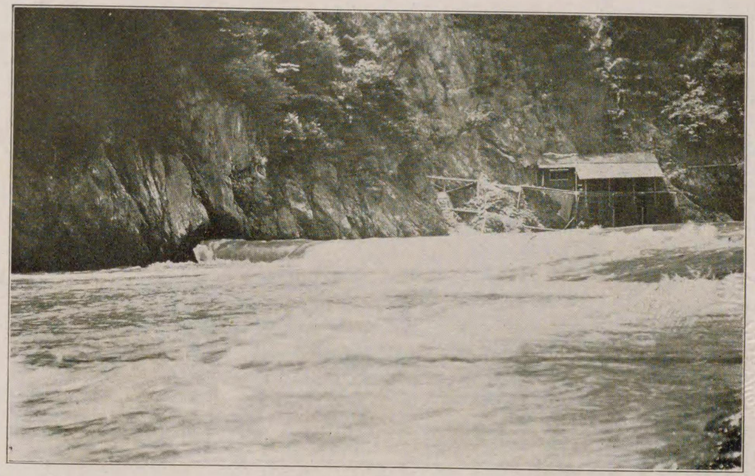
は今がふいとたつあが濫なき丸に當相に滅上ぐ直の橋のこは昔らだき〳〵ふいと滅淺いしら滅淺は澤筒のこし然。いなも影のそにとこる見を澤のことはのもたし疲出を井長小頭干きだま朋。うよ來出がとこる寸歸一を氣眠でつよ

(43)

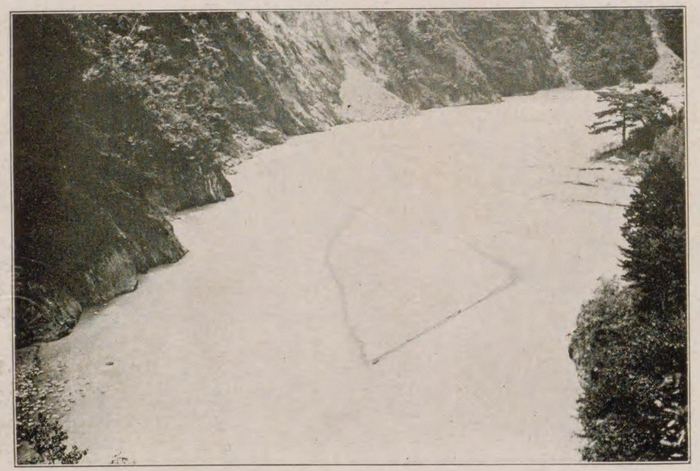
る見を合出の又寸りよ村根川東郡太志

川又寸に手左、とむ遥を中林森り空を放てき過を落落の山野桑左、木土は手右で山口澤は方前。る え見が狀るたゝ蜿の滅筒の御頭千と滅上の又寸、で遥の〳〵面方山湯間太は路遥る え見に方。るまでのむ遥を遥のそらか間澤はのもるすとんせ歸探を林料

桑野山から八木を右に見て長坂を下り釣橋を渡つて小山發電所を左に見て峠を越すと又釣橋がある。この邊は駿河路やら遠州路やら一寸見當がつかない程入組んでゐる。これは峠を越した小山發電所の取入口附近である。



小山發電所取入口 (44)



志太郡東川根村谷畑 (45)

谷畑山は急峻な山である。この山を背にした谷畑の入口の斷崖附近に紅葉の多い所がある。この邊まで來ると大井川も餘程狹くなるのみならず、岩も非常に大きくなる。頃りに秋錦柿緋の頃が思はれてならない。

谷畑から又一つ釣橋を渡る、こゝの聚落が奥泉で、割合に廣い所である。人家の軒から軒を傳はる樣に茶園の中道を進んで行くこの聚落を行き盡すと山路にかゝる、左に古い池の趾を見ながら登つて行くと道が思ひの外によくなる、やがて平へ出て數町にして赤石の辻に至る。赤石辻は奥泉から大間、寸又川、湯山方面と長島、梅地方面との岐路である。この辻が旅人を喜ばせることは大無間、鶴の天などの遠望をほしいまゝにすることの出來るのにある。この時は惜しい事には大無間が雲に被はれてゐた。

（赤石辻）　泉奥村根川上郡原榛

石ッ三村根川上郡原榛

（47）

はき先らかれこゝる人に林森の檜杉は道てしに町數らか辻石赤路中途し然。るせら腐を心の人旅り成可で折曲爲辻のと鼻と谷たつあで底河の前年千數の所高のこてつよに岩互るす在散に傍は味をさし淋の山に音のきゝつ木くいひに彦山、りたへ考を事瞰を石ッ三のこに特。いなせとしな興てし決はとこるすりたつ川井大、るえ見にか僅らか下足が林密大の樹葉濶はり邊るす下分充にのふは味をみ深の山、てゐてい引を裾く長でまりとほの。るあで

昨日も一昨日も出た夕立が今日も亦出やうとするのか。雲が頻りに動く、折しも雲間を漏れた深山の夕暮の日の光。夕暮の山路をさまよふものゝ寂しい心は、この靜寂にして偉大な大自然を、地にひれ伏して心ゆくばかり拜みたい樣な心持になる。靈地靈場に彷徨ふ者は、こうした時にこそ眞に佛の御姿を目のあたりに拜むのだらう。大慈大悲の佛の御心は、一木一草にも宿るといふ。目の前に靜かに樫の葉が光る。

景夕の田ヶ平ヒラン村根川上郡原榛

瀧の動不　島長村根川上郡原榛

一る祀を佛のしがになに傍路、滲るゆ聞の音の斧の夫樵の島長に天は稍でつあが木老の樵はに前の堂御のこ。るあが堂御の宇。るあに所の少數方後のそは瀧の動不。るゐてつ蔽を谷は枝し摩るもこに瀧はくらばし、ちたり下に靈瀧し托に佛の堂御を物荷。ぐ嗽に流下のそらがなで出ひ思を句の翁とや

木枯　島長村根川上郡原榛

不動の瀧の橋を渡つ處にこと處たつ波を橋の瀧の瀧の山を骨仙のそに雪氷霧雨でしと友が我を嵐の峰し吸呼を霧雲の磨い行者の風格を偲ばせる。

地梅村根川東郡太志

長島の聚落を行き盡すと梅地橋に至る。この邊大井川は川幅十數間位、峽谷らしい氣分が濃厚になつて、これが平野に出て五百五六十間の橋のかゝる大井川の上流かと、その變化の激しいのに驚く。兩岸の岩には蘚と石菖とが密生して岩間の所々に小さな瀧がかゝつてゐる。

右方崖上にある聚落が梅地で、こゝには佐藤館などいふ旅館もある。玲瓏（コダマノイシ）神社といふ昔の金坑の趾を祀つたらしい社もある。

接岨峡（セッソケフ）

實備はりて其名の未だ顯れざるもの有り。其名顯れて其實備はらざるものあり。顯はるゝも是命。顯れざるも亦命。古來人と物と皆然り。

馬溪は山陽に遭ひ、木曾は拙堂。芳野、嵐山は帝京に近く、須磨は交通の路に當る。

近代八勝百景の聖代文運の昌に負ふ所多きが如き、是悉く命の然らしむる所と謂ふも雖、果して其實備はれりや否。而かも命未だ動かず實備はりて名顯れざるもの〻少なからざる誠に惜むべきなり。

我が接岨峡の如き又其の一か。

抑大井川四十五里中、安倍郡井川村島和合より志太郡東川根村梅地に至る、安倍志太、榛原三郡境、三里の間、是を接岨峡と云ふ。接岨、元名有りて文字不明、或は瀬早と書し、雪掃と書す。蓋此地兩岸相迫りて幅員數間、斷崖絶壁、接岨の文字其狀に近し。

古來三郡の通路は遠く山上に在り、歩行する者、僅かに密林の深底に淙々の音を聞き、樹間、時に銀蛇の動くを窺視するに過ぎざりき。

明治に入りて赤石森林、伐採の事起り、大井川々狩の開始さるゝや、流木を追ひて此處を過ぎるもの漸く相生ず、期多くは晩秋初冬涸渇の時水量極めて少なし。而かも通過數十人中生を失ふもの必ず數者あり。今名づくる處の地名、多くは是等遭難者の氏名なり。峡に入る流木三萬本にして下流に出づるもの萬餘本に過ぎず。是其大部分は三里の間、或は巖石に阻止せられ、或は裂罅に突入し、或は激突粉碎せるなり。水勢奔激、萬雷常に轟き、井川の清流、濁流と化して梅地に出づ。

舟行上は井川に停し、下は梅地に止まり、土人恐れて近づかず、爲に其地理に審しきもの少なし。即ち接岨は川狩人夫の一部のみ知る恐怖の名たりき。以て其の險を知るべし。

惟ふに山水の妙奇は是を險に求むるに非ざれば得て見るべからず。劍、槍、黒峡皆險にして妙奇なり。今接岨の險已に斯の如し、故に其風光の妙奇なること亦明かなり。余是を思ひて今夏榛莽荆棘を斫り險を冒して其妙奇を探らむとせり。然れ共恨むらくは余に序するに賴齋の筆なきを。

乃ち爲に寫眞班兩三人を伴ひ其實景を撮影して是を世に傳へんとす。

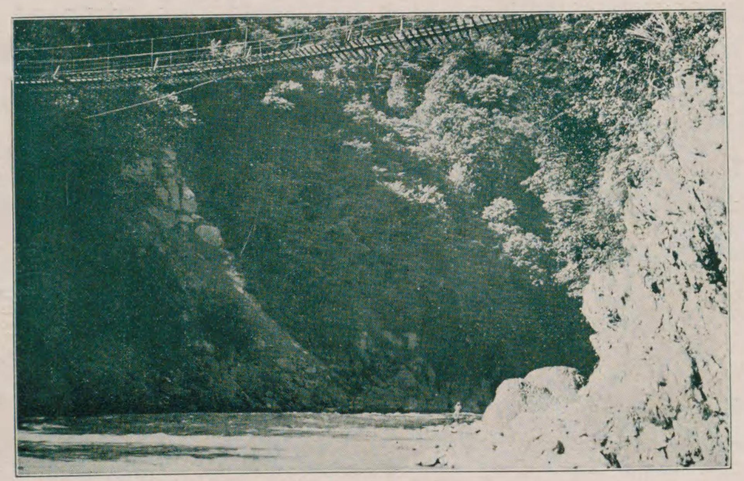
惜い哉、行路難にして日時少なく、撮影未だ接岨の悉くを盡さゞるを以つて其全景を綜覽せしめ得ざるのみならず、寫眞には文飾なきを以て其實景の感を躍動せしむる事能はず。

冀くば觀者此寫影に接し眞景を想像して其の欠を補はれよ。

昭和三年九月　　齋藤新右衛門記

接　　岨　（其の一）

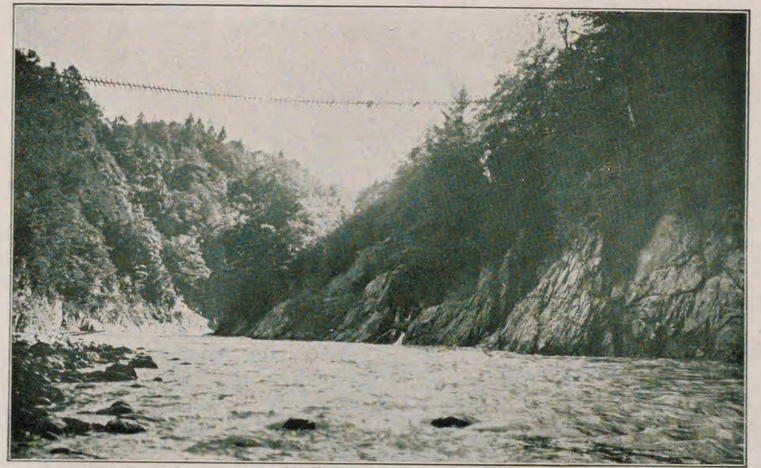
これは梅地橋上から見た下の接岨口である。接岨とはこの梅地橋から安倍郡井川村島和合に渡る接岨橋に至る間。郡は志太、榛原、安倍の三郡、村は東川根、上川根、井川の三村、道程三里の間を云ふのである。これから先、道は梅地背後の急坂にかゝるのであつて、大井川とは暫時別れねばならぬ。この上流におちん落しや青崩、關の澤の落しなどいふ所があるが雉兎の通ふ道すらないので今はその風光も探るに由ない。



接　　岨　（其の二）

海久保澤の落附近から下流を見る。こゝから川は右に屈折して四人の川狩人夫が立往生したといふ四人立、青い頭巾を冠つた組頭の慘死した青頭巾などいふ難所はこの下流であるが、行く可き道がないから想像しながらこの物凄い峽谷をのぞいて見て元來た道に引返す。

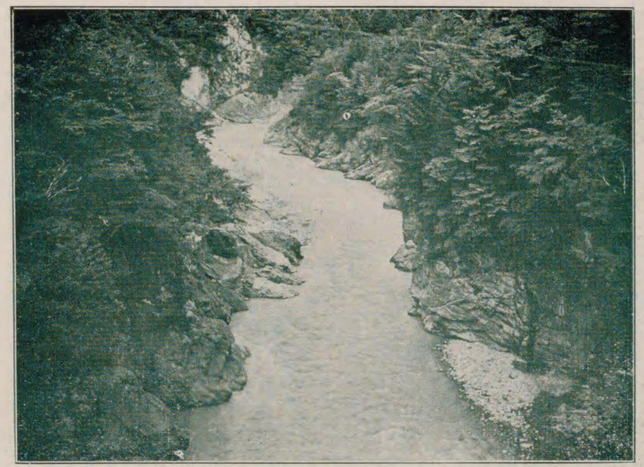
接岨は此の邊が約三分の一位の處であらう。梅地背後の急坂を登り盡し峠を越して三四町、左方御料林中の急な小徑を身を支へながら漸く下り盡すとこの釣橋に出る。右方やゝ上流が海久保澤の落しで、數個の小瀑があるが岩の蔭で見えない。海久保の聚落は其上方五六百米の處にある。



(54) 接岨 (其の三) 海久保澤の渡附近

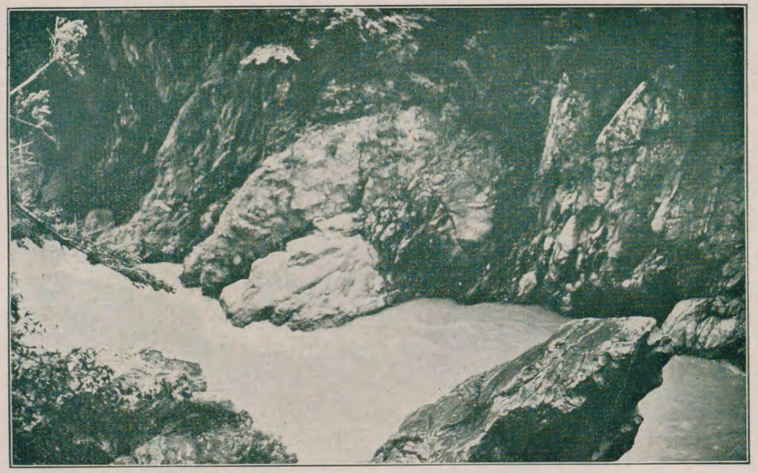
(55) 接岨 (其の四)

釣る渡に藏閑川井らか保久海。るゐてつ道を腹中の山で總は道と流清ゝやが流濁も川井大。るえ見らか間木の楓やジミモが橋。るあで藏閑川井が先らかれこ。たつなく狹とつずも幅川てつな。るあも場教分の校學小で落部の戸二十はこそが



井川閑藏から栗尾に渡る釣橋の中央に立つて上流お花崩れを見る、立つてゐると足が戰慄する、試みに小石を落してこの橋の水面よりの高さを計る、裕に七八十米はある。木曾川にやゝ凄味を加味した絶景である。兩岸の楓、山モミヂなどに十月頃の眺めが思はれてならない。參謀本部五萬分の一にある閑藏から島和合に行く道は今は廢道になつて使用してゐない。

接　岨　（其の五）



安倍郡井川村閑藏の釣橋と、同村お花崩れとの中間の激流碧淵で、兩岸の岩壁數間に相迫り、或は突出し或は洞窟をなし碧淵の深さ十五尋と稱せられ接岨のみづちの在す處かと思はれる。

接　岨　（其の六）　龍神の淵

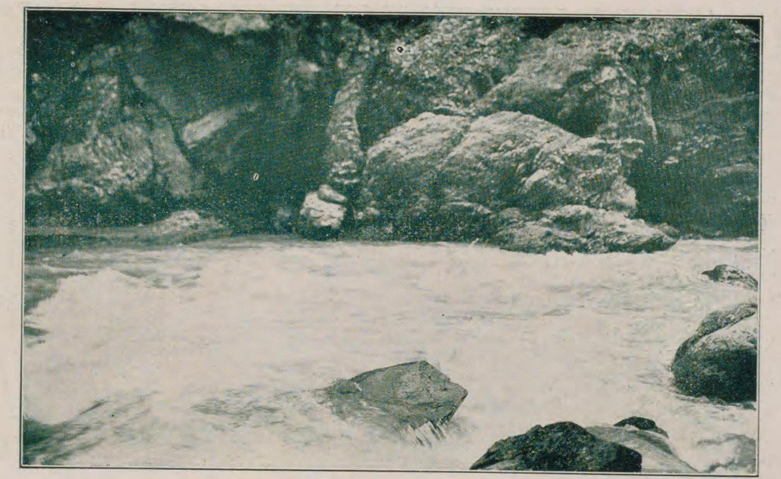
梅地で頼んだ道案内の彌次さんが山刀を打振り〳〵道を作つてくれるので一行は一歩々々踏みしめながら注意深く進む、こゝはお花崩れと釣橋の間の全く道のない所である。最後の斷崖の上に出た、岩の襞に身を支へて漸く川原に降りた處がこゝである。お花崩れはこの巨岩の後方である。

接岨（其の七）お花崩れ

接岨（其の八）

お花崩れの下に立つて奔流の狂舞する下流を見る。一体お花崩れと云ふのは閑藏から井川方面に至る途中の斷崖で、昔お花といふ乙女が崩れ落ちたのでこの名がついたのである。數年前の初冬の頃、東海紙料株式會社員松山氏の墜落したのもこゝである。崩れの高さ數百尺、〔眞一文字に大井川に崩れ落ちて居る。

同地点から身體を岩壁によせてレンズを對岸に向けた處がこの奔流激湍である。奇岩、怪洞、何となく薄氣味が惡い。



接　　峒　（其の九）

井川閑藏の鉤橋を渡つて左折し、小徑をたどつて大井川の音を鞋下に聞きながら進む。鬱々たる濶葉樹に蔽はれて川は一向に見えない、小さな崩の處で漸く懐しい川を見る。栗尾渡は直きそこである。

接　　峒　（其の十）　閑藏栗尾の中間

(92)

暖斜の渡尾栗　（一十の其）　峨　　接

の澤尾栗らか間たつ重り折の葉書。た出に部上の崩なき大が道。るあで川井大がのるはた横に方前るえ見が口し落のそと流清

(93)

當敵のし落衛兵源（二十の其）峨　　接

大とる下程来百五てけ分き踪を林木雜に左らか尾栗の軒三家人玉へし落衛兵源とるす下直をれ崩の此。る出に程中のれ崩なき多麓に中河は處此、るあで麓い無どん路は道、る来出がとこる頭の踪川の皆は衛兵源。るあで所雜最の踪川でつあが磯岩互のた居てしずはを木材く行れ流につ立に皆のいこ時或、たつあで河に間ぶ云トッア、れま込き巻に流弥るす颪狂てし激に岩は後のし落衛兵源くなとふい濫後其。たつましるあでのたいつが名

自分の下りることすら容易でない、こゝの崩れて特に注意を要するのは前進者の爲に石を落さないことである。岩を這つて漸く源兵衛落しの水近くへ來た。數年前まではこの河中に非常に大きな岩があつたさうだが九州の人等が舟行の目的を以つて最も水の落ちた頃にダイナマイトで破壞したので、これが河中に四散した、しかし結局舟は通れなかつたといふことである。巨岩の破壞位で舟行が出來るには余りにも接岨は河中に岩が多すぎる。

接　岨（其の十三）源兵衛落し（二）

接　岨（其の十四）源兵衛落し（三）

堂々の音が山の髓に轟き波上に黑く砂礫の躍り上り、巨大の石が波の面を走るのは此處でなければ見られぬ光景である。ジツト見てゐると我知らず捲き込まれ相な氣がする。この上流にドン〳〵と云ふ所があつて河流が瀧の樣だといふが道がないので割愛して栗尾の里へ攀ぢ登る。

栗は西の木、西方淨土の木であるとか、なる程栗尾は淨土に近い程高い處である。栗の木の巨木が所々に立つて居る。こゝから十五町程行くと青薙澤がある、この附近には猿猴や野猪が居て時々行人を驚かすといふ。幸か不幸か猿にも猪にも出會はない。左山の裾に青薙渡附近の大井川が見える。

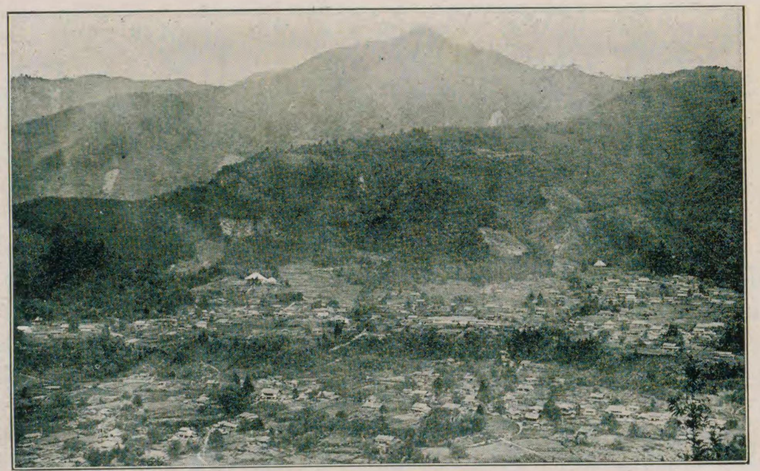
(66) 接岨（其の十五）青薙附近

(67) 接岨（其の十六）接岨口

青薙澤から道は又大井川と遠く離れ、遙か下方に森林を通して淙々の音を夢の樣に聞きながら尾根と谷とを横に縫つて行く。崩れに朽ち橋のかゝるもあり、小間物屋の女房の墜落した處などもある。これから森林を通り過ぎると急かに堂々の音が近づき、眼界が開けて接岨上の入口附近に出る。激湍白雪を吹くあたり、川幅が甚だ狹い樣だが右下端に立つてゐる人物に比較すれば、川幅は思の外に廣くなつたのである。

(68) 瀧つ七（七十の其）岨接

如、瀧の段七るゝかに林密。るあで觀偉の中道根川に實はれこはくらむし惜しらうあでとこるれとみはに景のこも人旅るな何河徹澄、流清は川井大の邊のこ、いなえ見が瀧の大最の段一第下以りよれこは流清の川井大。る來出へさとこるへ數も岩の底も見てつよに事一のこ。るあでのる變と流濁に間の里三岨接こ、かいなはでるれら知いかるあで所るな何如の岨接し來ぎ過廣が幅川に急らか橋岨接、る田に合和島と渡を橋岨接らかれ去は山の岸兩。るあで程るれは思とか川井大亦も亦も流て來出も原川り

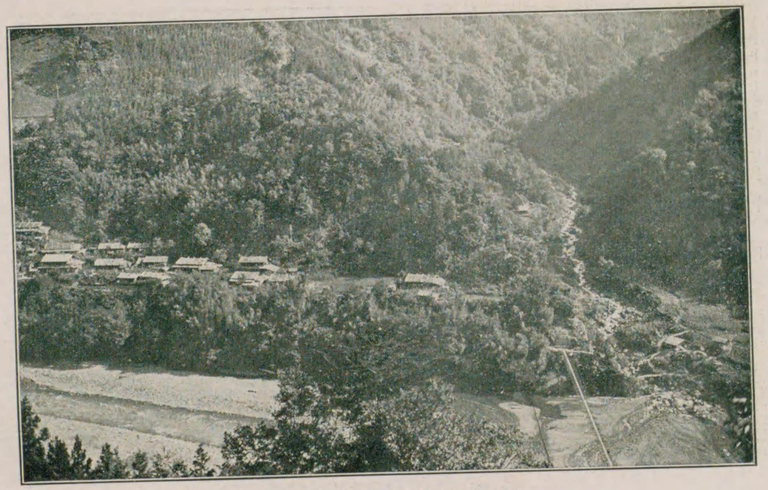


安倍郡井川村井川全景

井川は大井川上流に於ての大聚落で、千頭・小長井に劣らない。日本南アルプス方面と大井川沿岸の川根地方と靜岡方面との中点である。旅行者は何れの方面から來ても必ずこの里を過ぎなければならないそしてこの里を過ぎることによつて旅行者の氣分は第二段なり、第三段なりへと全く新たにされるのである。靜岡から安倍鐵道の便をかりれば一日にしてこの井川まで來ることが出來る。

井川の聚落から大井川を渡つて東南方約一里、大井川の流域に別れて靜岡方面に越す所を大日峠といふ。靜岡から來たものはこの峠を越して初めて大井川の流域に入るのである。路傍に大日如來を祀る小さな御堂がある。これから歩して數町水呑茶屋があり、猶十町にして口坂本に至る。これは大日峠から南方の眺望である。

安倍郡井川村大日峠 (70)



安倍郡井川村岩崎附近 (71)

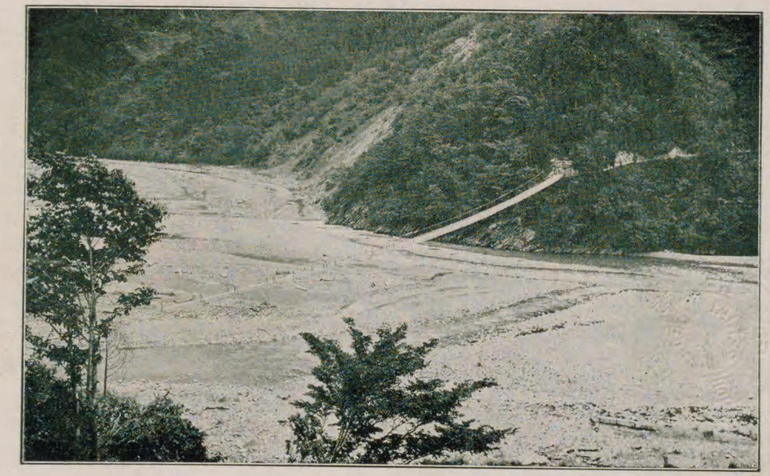
井川邊からの大井川はその廣さに於ては中川根附近と大差はない、接岨とは全く變つた狀態である。遠州路を進むと右手對岸に岩崎の聚落があつて、右端の細い溪流の屈折が割合に面白く思はれる。

(72)

落葵の代田村川井都皆安

スプルア南本日は代田る至に落葵の代田ず次に川井、里半らか島大無小、論勿は面方有赤亀椎こるあで点地な要重つ寺を路通の〜面方各内河小、も〜面方延身、島ヶ梅て去避を神月三、も〜面方間無へ間帯非は代田の代時気景好。るあでの〜行らか庵此も〜面方島祝らかの面が都林山音大。ふいとたつあも〜どな放藝め極を嶽殿に代田

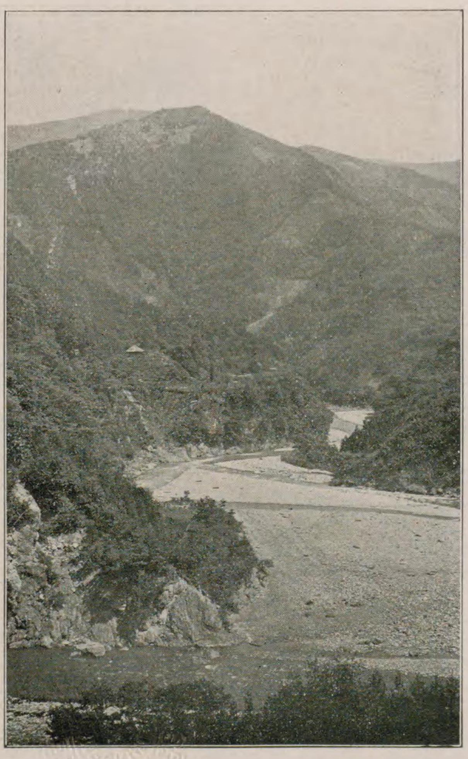
大島から上坂本へ渡る釣橋である。上坂本は對岸橋の袂から約二町右手である。



安倍郡井川村坂本の釣橋

安倍郡井川村小河内

小河内は大井川沿岸に於ける最奥の通年生活者居住地で四十二戸ある。田代の信州系に反してこゝは甲州系の人々の聚落である。數年前まで金鑛の採掘をなした金澤はこの奥一里弱である。寫眞は小河内川の落し附近でこの島は辨天といつて、實景はこの寫眞以上によい。



(76)

安倍郡井川村田代の奥

田代の聚落から諏訪神社の鳥居先きを過ぎて右方を望めば小河内の方面から三尺峠が見える。三尺峠は梅ケ島への道である。

(77)

近附骨の蛇村川井郡倍安

（一の其）

そ。あるが分氣い近に下崎稍で壁絶の丈十何岸兩は近附骨の蛇兎がいはせて程岨接てつあにそ所が原川もらがないなりもそれ總と觀てし伏を川井人でのるあに腹の壁が道の位尺二幅角に。い凄物程るじ生を懌に身

蛇の骨の崩れの上から下流外山澤方面の眺望である。

(78)

安倍郡井川村蛇の骨附近（其の二）

(79)

瞰俯の近附石泣村川井郡倍安

清たし徹澄も川井大りあも木大のどな樺樅、とる來でま邊のこは思をみ深の山くなと何も色の林森の圍四し高も山、りなと流

るせ

(80) 近附石ッ三村川井郡岱安

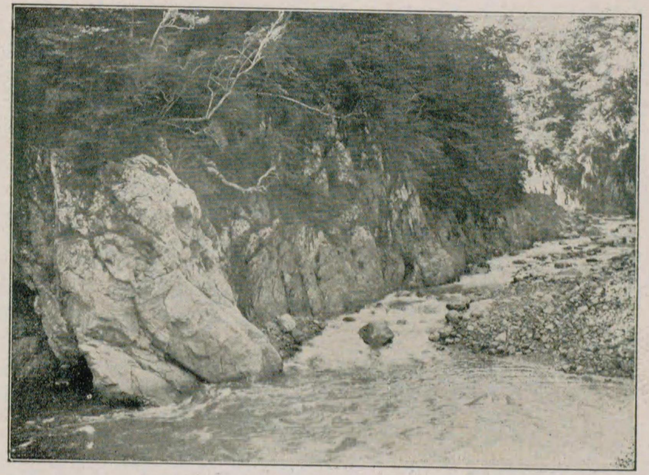
石ッ三もゝこがたつあもに先の田平村根川上は逢ふいと石ッ三綱大。るあでのたし下見を石ッ三の其ちか根尾の綱大。るあでる入が木流に入禮のそ、で所すなを流曲大の川井大はのふいとのこ、でのいな來出がとこる出れ流で様同とたつ入に中の綱と炎に直接は々人の猟川。るあで相だのたけつ名と綱大を流曲大。るあで綱大のそがりたあたし曲吞間中。るゝてついとだ所雖ぐ

(81) 岱安郡川井村高ゞ潮き高

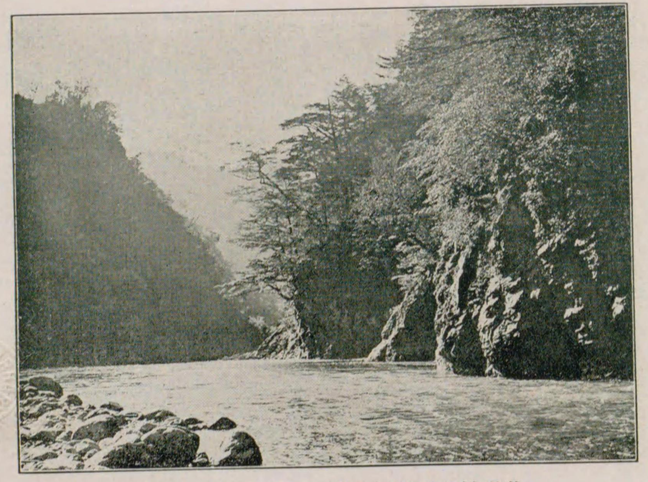
(一の東) 景

差に島潮高てき過をりたあ屋小の島木の桑、れ崩新うか背の蛇流渡の内河東てつあも家人は期夏りあも屋小はに島潮高。るすは川井大の邊のこに殊。るあも器通の〜面方又稍島硯てつ添に。るあが味い雖て格見に等台工の岩、子様のれ流し帯と御兵七

高瀬島を出發してから明神谷の落し附近に來るとこれから暫時の間は秩父長瀞そのまゝの風光であつて、稱して大井長瀞といふ。こゝに注意して置くが參謀本部の五萬分の一の地圖に出てゐも左岸の道は今は廢道になつてゐる。



井川村明神の谷附近（大井長瀞）（其の一）

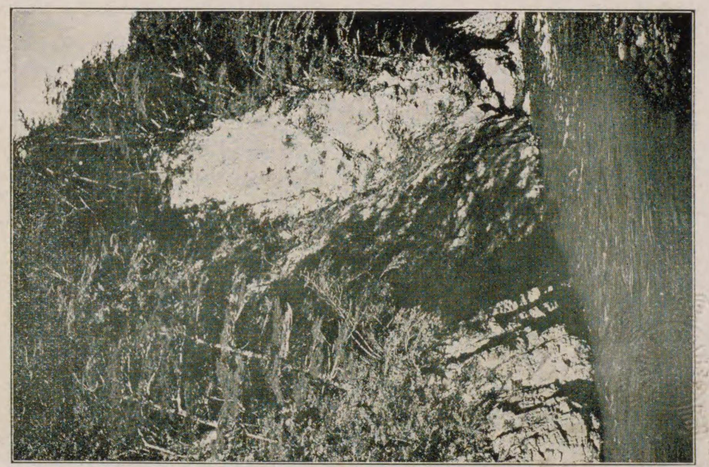


井川村大五郎澤附近（大井長瀞）（其の二）

明神の谷からこの大五郎澤あたりまでが大井長瀞と稱すべき地である。岩の容姿、その色、油の如き清流の滑つて行く樣子等決して秩父長瀞に勝を讓るものではない。寧ろ山の深いだけに味の深いものがありはせぬかと思はれる。

安倍郡井川村下ン草履

下ン草履は四文草履だといふ。何時の時代か知らないが四文で買つてはいて來た草履が此處で切れたといふのである。何だか甚だ便りない傳說ではある。こゝで漸く我々は南アルプスの一部に逢ふ。上河内岳から茶臼岳、仁田岳等の一脈の雄姿を仰望してなつかしい思ひに浸ることが出來る。



井川村大字五郎澤附近（大井長瀞）（其の三）

(86) 安倍郡井川村下の島山葵田

田代澤を渡つて下の島に達する所に山葵田がある。この山葵田は川根から井川切つての最大の山葵田だそうである。この邊で取れる山葵が靜岡名產山葵漬の原料となるのである。下の島には加藤商事の小屋や夏期には一戸の居住者もある。信濃俣河内への路はこゝから分れる。

(87) 內河俣濃信

谷深な力有の川井大つ俣相と俣西、俣東、又寸、は內河俣濃信重水でめ集を水の等澤根本、俣濃信、リカッテ、老易。るあで か地に林密大の木玄の有特スアルア南本日に殊、りあに當相も。るあで谷關たれ

(88)

近附渡ト澤ニ村川井

で猿ぶいと獲猿を邊の此、るゝかに崖斷は道町數らか島の下てしに里半らか獲猿。るあでのふいとるせ獲ほれ通を處此へき國茶はのるえ見に樣の國茶に方上前眞寫。る至に近附橋釣渡澤いなもで畑も

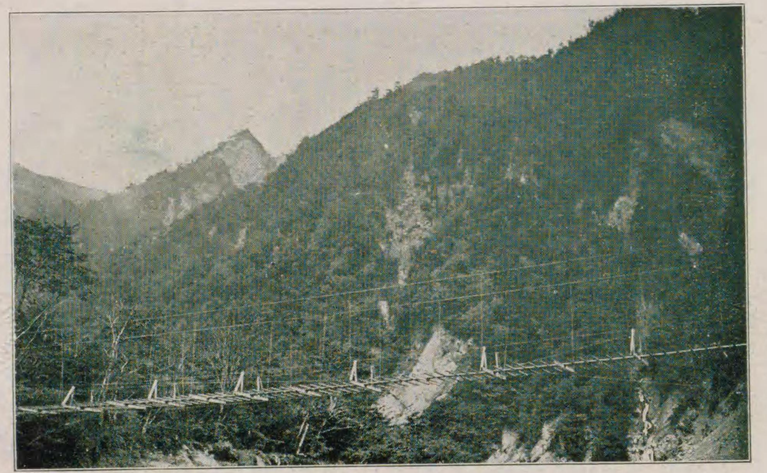
(89)

近附澤蓬村川井郡信安

つあも館旅戸二は住居の季夏はに平沼、く落に平沼らか猿ン澤平沼は眞寫のこ。るあで所な當適でしと地泊宿間島桃、川井で平沼。るあで望眺の面方れ開たうお山藥畑らか澤蓬町數十らか。なつあ迄頃年五十正大が猿の籠ついとし越約は

(90) 瀧の戸木唐村川井郡倍安

らかれ崩の地高の米五〇一二き續根尾の山蕉青は谷の次の澤蕉大の段二ろゝかに谷のこは瀧の戸木唐。るあで谷の戸木唐る出下がいなえ見はらか路道はきき大のそばのもの段上。るあで瀧流段げだけで甚も大いき



(91) 安倍郡井川村龍眼崩附近

伊谷から釣橋を二つ渡ると龍眼崩れ附近に至る。こゝから青薙山及青薙崩れの方面を見る。

青葢澤から青葢崩れの岸石の押出されたあたりの大井川を不動瀧といふ。別段大井川が瀧の様に落下してゐるのでもないが斯う云ふ名がついてゐる。然し乍ら川幅も狭し急流ではあるし瀧に近いもので、これはその不動の瀧の下流である。

安倍郡井川村不動瀧附近　（其の一）

これは不動瀧の上流に山する部分である。

不　動　瀧　（其の二）

5
1

安倍郡井川村中の宿附近

沼平から中の宿まで二里、この中の宿には夏季は人家が出來る。これは中の宿附近の川狩の樣子である。流木に乘つて自在に急流を下つて行く川狩人夫の巧妙なる技にはまつたく感心させられる。此の流木がこの年の終り頃までに島田町向谷の貯木池に到着するのである。

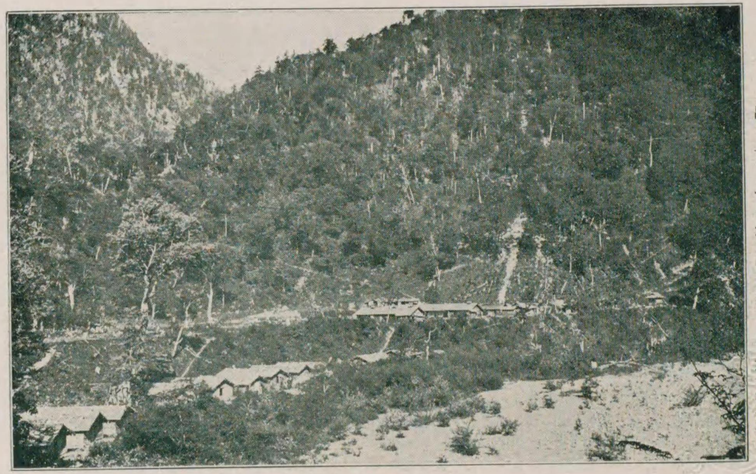
流す木の數百萬石よ揚げた島田が山となる（島田音頭）

不動瀧（其の三）

東岳登山道（其の一）奥西道より

(96)

椹島からは赤石岳登山道を選ぶもよし。東岳登山道を選ぶもよい。今は千枚岳東岳方面を選んで奥西道を進む。大密林の中を行くこと丶て、目ざす千枚岳及東岳の容姿を仰ぎ見ることすらなか〳〵容易でない。二軒小屋方面への分岐点から左方に進み登ること暫くにして僅かに樹間を通してその望みを達することが出來た。



安倍郡井川村椹島（アテシマ）

(95)

途中右岸山上にある巨岩はその形、破風に似てこれを遠望すれば大家屋の様である、これを破風岩といふ。中の宿から二里、赤石山麓の椹島に達する。蓬澤邊以北大倉山林の總本部の有る處で、大倉山林事務所及人夫小屋の他に旅館も二軒ある。赤石岳方面、聖岳方面、千枚岳、東岳方面、二軒小屋、轉着各方面へ通路の中心地である。

桶つくる椹の島の新年業　出來上るまでたがをゆるめず　大倉鶴彦翁

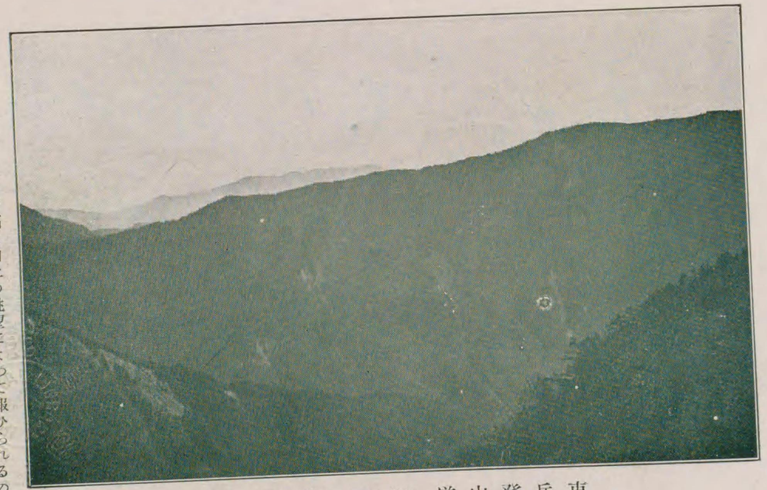
一歩一歩登つて漸く一五八六米の小石下三角点に達した。こゝで切株に腰をおろして、一休みしながら東岳及荒川岳方面を眺める。これから尾根から尾根へと大倉山林部の新開の道を進むのである。

東岳登山道　（其の二）

東岳登山道　（其の三）

かくして千枚岳も近づいた。白樺の密林の上を通して東岳、荒川岳を見る。この邊は階段式に造られた大道路である。晝猶暗いこの大森林の中に青みどろと腐木に滿たされた薄氣味の悪い池がある。

千枚岳の富士見平も直きそこといふのになか〳〵道ははかどらない。休んでは登り、登っては休む。密林も粗林となり、林の高さも低くなつて眺望ができる様になつた。一息入れながら甲州越えの轉澁峠方面を見る、かすかではあるが右手に奥秩父連峰が見える。



登山者の言ひ盡し難い苦痛は山上の眺望によつて報ひられるのである。登山者は下界では見ることの出來ない、壯嚴にして清淨なこの眺望にあこがれて苦痛を忍んで山を登るのである。千枚岳富士見平の眺望は南アルプス中有數のもので、その位置千枚大崩れを横に見て、遠く東方富士を初め五湖の本栖湖を望み眼下の大井川の深谷と白根山脈の南走した屏風とが更に一層深い味を持つ。その壯大に於て、優美に於て、清淨に於て、閑寂に於て實に何とも云ひ盡されない處である。

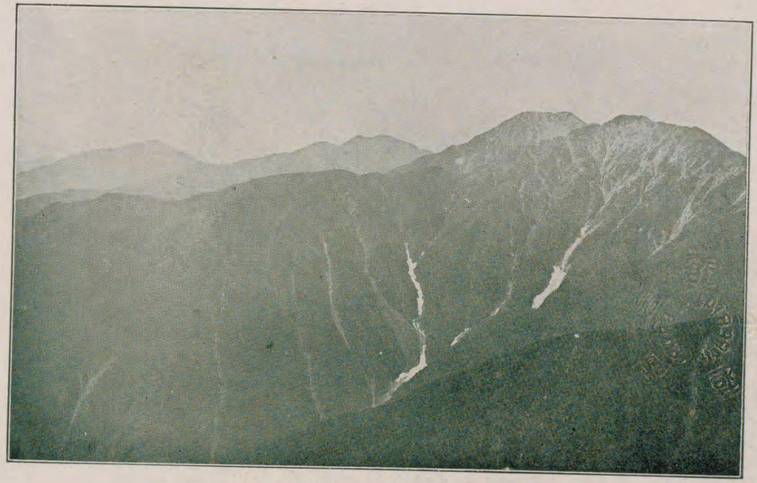
誰かゞ云つた様に北アルプスが厳しく鎧ふた武夫の相貌としたなら南アルプスは處女の姿である。中でもこの千枚は春の野に下り立つた早乙女の姿である。つゝましやかな、そしてなだらかな、ふくよかなその氣高き姿よ。

東岳登山道（六の其）千枚岳

東岳登山道（七の其）東岳の頂上と荒川岳

千枚小屋は富士見平から五六町上の偃松中にある。二十分にしてお花畑へも行かれ、滾々と湧出する泉もあり、道路の幅員一間以上都大路の感があり、自動車を縦横に馳騁することすら出來さうに思はれる。實に山上の大公園であり、天國の樂園である。今その樂園の大道路の偃松に腰をおろして目ざす千枚東岳の頂上を仰望した處である。

天鵞絨の様な偃松を縫つて雷鳥の聲を聞きながら、遂に千枚岳（二八七九米）の頂上に立つて西から西南方面に連る小赤石岳、赤石岳、聖岳、上河内岳等を眺めると數へ切れない皺の數々、消え殘つた雪渓、麓から峰近くまで蔽ふ大密林、本州脊梁の神祕境としてのこの一帶が見えて一種云ふべからざる敬虔な心持になる。



東岳登山道（其の八）千枚岳の眺望　其の一

西南から目を轉じて我が行くべき東岳を仰望する。山骨突兀たる前の山が東岳で右方崩れの附近に地藏石といふのがある、その形が地藏にさも似てゐる。今は二體しかないが元は三體あつたといふ。一體は崩落したのであらう。左方は荒川岳の頂上である。

東岳登山道（其の九）千枚岳の眺望　其の二

地藏のお姿を伏し拜んで、その附近に憩ひながら北方を見れば直前に蝙蝠岳（二八六五米）の崩れが痛々しく目に入る。左方の山頂は北俣（二九四〇米）から鹽見嶽（三〇四七米）である。この屏風の奥、密雲の蔽ふ處は白根山脈の農鳥岳（三〇二六米）間ノ岳（三一九八米）から駿、甲、信國境の三國岳（二九九九米）等で大井川最奥發源地である。

東岳登山道（其の十）千枚岳の眺望 其の三

東岳登山道（其の十一）東岳 其の一

千枚岳を極めて愈々東岳にかゝる、山頂に至る少し下で荒川岳から大聖寺平、小赤石の尾根續きが手に取る樣に見える。大聖寺平は有名な御花畑のある處、大倉山林部の小屋と長野縣々營の石小屋とがあつて登山者の宿營には好適の地である。長野縣伊奈大河原からの登山道はこの大聖寺平附近に出て來るのである。

東岳（三一四六米）が間近になつた、赤石連峰中第一位の東岳の頂上である。東岳は高さに於て赤石連峰中第一であるのみでなく、その峻険に於ても亦第一位である。彼は決してなだらかな處女の姿とはいはれない。剛堅なる大丈夫の風姿がある。

(107) 東岳登山道（其の二十二）東　岳　其の二

(108) 三の其　岳　東（三十の其）道山登岳東

三八〇三）岳川荒てつ登に上頂岳東てち攀を根の際巨るたゝ峨然猛りよ間谷の方右は雲。たつなくし烈が来去の雲。る見を（米頂山のそにめ為の風るげ上き吹りよ谷の方左て来てつ上き湧と見にみの家山登赤もれこ。る起が廻旋大の雲いじ凄物に線水分。るあで象奇のつーるれさ許をとこる

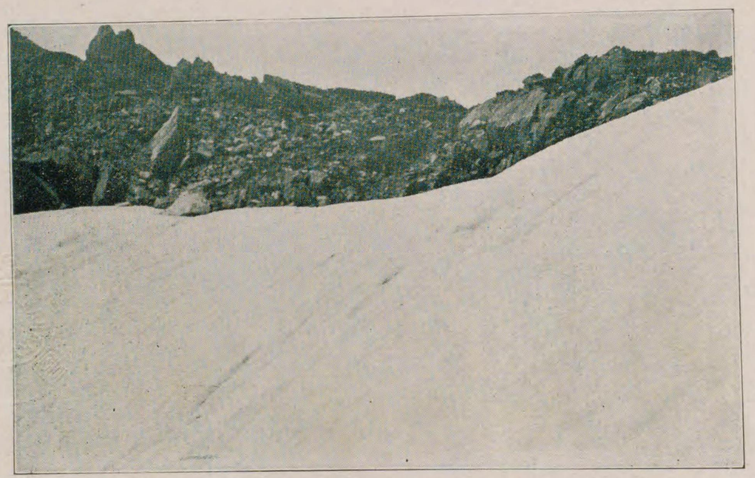
早朝椹島を出發して道を千枚岳、東岳方面に取つたものは荒川岳を踏破して、日本有數の御花畑を有する大聖寺平の山小屋に一泊して、翌日小赤石から大赤石を極めて椹島に下るべきである。けれども大聖寺平からは大河原方面へも下りられるし又赤石山脈北部縱走の道を選ぶことも出來る。

これは小赤石から大赤石の尾根を通して見た聖岳である。

大聖寺平から赤石岳へ（其の一）小赤石から見た大赤石岳、聖岳 (109)

小赤石から愈大赤石にかゝる。

流石大赤石は南方の盟主である。その雄大にして沈毅なる。未だ山巓に至らずして已に山靈に打たれる。これはその途中大赤石の肩へ取着く附近の雪渓の上部である。



大聖寺平から赤石岳へ（其の二）赤石岳の雪渓 (110)

赤石岳の頂上は何と云つても眺望がよくきく。天氣晴朗の時は、東方富士は勿論、五湖から秩父根を望み、南方は限りなく重疊起伏する駿遠の山々から太平洋を見ることが出來、西方は天龍川から日本中央アルプス諸峰大河原等信州南部を双眸に收めることが出來る。寫眞は銀蛇の如くきらめく小澁川から信州大河原方面の展望である。

(111) 大聖寺平から赤石岳へ（其の三）赤石岳頂上の眺望

(112) 赤石岳頂上（其の一）道山登の

晴が霧もくなけ掛ひ思 た來に處の溪雪大な名有てつ下を上頂白と霧もでれそ、跡の雪なか僅のんぼしえ消らむと殘名 たれるへそを趣でん圖をれこがと畑花おと松偃と樺

高山植物はその種類の多いことに於ては歐洲本場のアルプスよりも日本アルプスの方が遙かに勝れてゐるといふ。日本アルプスの中ではこの南アルプスが特に勝れてゐるといふ。其の數、實に三百數十種、中でもハクロバイ、コマメヘウタンボク、スンシウヘウタンボク、ヒメセンブリ等が珍奇なものといはれてゐる。

赤石登山道（其の二）　赤石岳の御花畑

(114)　屋小の下（三の其）　道山登石赤

暮夕、がるあでか穩てめ極はに前の光の陽太。るあで性魔は山。るあで暴舞片獨の彼く全は夜深、てしは現を性本のそに時同と下の苔の畑花お、もらか隱の松偃、もらか間岩の岸、もらか分てし和に響の流淡、て來てつ上き起、とクムクムが精妖、もらかとこまは夜は間人く歩りばきのてりかを力威の陽太。るす舞亂ひしひ、じ感とくづくつをき弱微の分自。るあでのもなれ哀にり折、これき安慰に光の燭蠟の本一唯をきし佗るませに胸とした人共。るゐてつなくさ小にみいこ前らがなり取を暖にだ淫の間自とツキキが精妖。く行てえ消へ中の暗らがなひ笑てし出を齒いに夜一の屋小山。るあがじ感たしらかは

56
17

悦しい夜に引き代へて、朝はどれ程嬉しいことか。雲海の彼方から乳紫色の波を開いて眞紅の太陽が昇る。ホガラ〳〵と歌ひながら名もしれぬ小鳥が谷から上つて來る。白樺の葉が微風にさゝやく偃松が起き上る。鈴蘭が微笑む。晴れ〳〵とした山の朝。飯盒炊爨の煙が棚びいて靜かに流れる。矢張太陽は人間の親だ。人間は太陽の愛な息子だ。

赤石登山道（其の四）下小屋附近より聖岳を望む

赤石登山道（其の五）

少し下ると雨が降り出した、山雨も亦一興とは思ふが、足元の不安と身の重くなるのと寒氣の增して來るのには閉口である。然し蕭々と降る小雨だからさほどの危險はない。これは雨中の赤石山道から板取及笊ケ岳方面を見たものである。然し猛雨ならざりしは天の我に幸せしものである、登山に最も恐るべきは猛雨である。

56
17

晴れつ、曇りつ、雨降りつ又晴れつ、氣象の變化の激しいのも高山らしい。道は偃松地帶から濕木地帶へ、それから密林の内にと下る。この邊に上の中腹小屋と下の中腹小屋とがある。共に好適の宿營地である。

中央手前は鳥森山、遠景の連山は青薙山、赤崩れ等である。道は廣し、尾根づたいではある、梯島は歩一歩と近づく。

赤石登山道（其の六）

赤石登山道（其の七）

前の地点から一層下つた處から鳥森山の尾根を廻して同方面を見る梯島はもう直き下である。こゝに至る途中の森林中に、其昔紀の國屋文左衛門が江戸の大火の時、この赤石から出材した切株の腐朽したのが殘つてゐる。一寸當時のことが追憶される。昔時一代の豪商紀の國屋文左衛門と、近世の大實業家大倉喜八郎翁と兩者共にこの赤石に名をとゞめたのも亦奇といはねばならぬ。

瀧大の岳聖

(119)

石赤、里半約ていつに澤石赤ていつに右を裾の山森島らか島椎あが瀧大の聖てしに里一道山りよれそ、ぎ過を近附の砲鐵大の曾だ未てつあで布瀑の大最城流川井大、間四幅間餘百き高。る を道々態きつに山登の爵男倉大夏昨をのたつかなれら知に人てこ、をのたつかなれか行に遂爲の天雨は爵男がるあでのたつ作る あでのたし影撮を瀧大のこてめ初てけ受を德餘のそが行一の中段岩上の人物と對比すればそのそ大いさを知ること出來やうや

ビクター
ポリドール
コロンビヤ
レコード
蓄音器

パテーベビー活動寫眞器

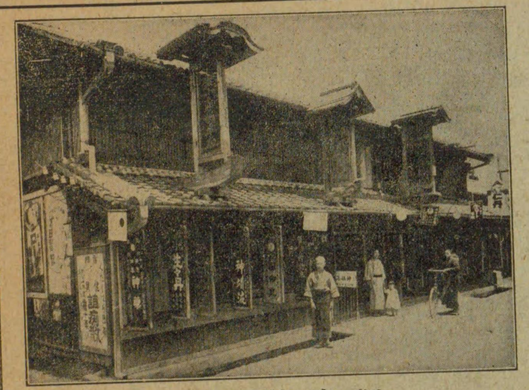
靜岡市吳服町三丁目
すみや
雜貨部
樂器部
電話一一〇五番

東京電氣株式會社
三菱電氣株式會社
代理店

靜岡市吳服町三丁目
すみや電氣株式會社
電話一一〇五番

マツダランプ代理店
電氣器具一般

56
17



調痢散本舖

嘉十藥局

島田町　電話三三番

ナョウリサン

REGISTERED TRADE MARK

登録商標

健胃整腸劑

調劑本舖

嘉十藥局

健胃調痢散

東海道線　金谷驛前

金谷合同運送株式會社

電話三番・七番・三〇番

大井川鐵道　横岡驛前

合同運送店

電話三九番

56
17

マニラ底 輕王靴縣下販賣元

大 靜岡一ゴム底 東京一ゴム底 草履原料 一手販賣元

靜岡縣島田町

各種履物製造問屋 大 九島商店

工場 八折台工場 島田町向谷
草履製作工場 島田町九七〇一
電信略號（〇タイ）又ハ（タイ）
取引銀行 島田銀行・西駿銀行
島田局私書函第二十號

河邊紡績株式會社

靜岡縣島田町

靜岡縣島田驛前

小林製材所

電話 自宅一二六番 工場六三番

（小林製材所全景）

56
17

靜岡縣志太郡島田町

戸數　四、〇八三戸
人口　二〇、四五五人

役場所在地　島田町幸町
警察署　全　四丁目
駐在所　全　向谷
全　向島
巡査派出所　停車場構内
郵便局　島田町六丁目
全（無集配）　全　向谷
靜岡區裁判所島田出張所　全　高砂町
靜岡縣第三土木管理區出張所　全　中川原區

中等學校

靜岡縣立島田商業學校　全　五丁目
島田高等女學校　全　幸町
島田高等裁縫女學校　全　祇園町
島田商工實務學校　全　中川原區

小學校

島田第一尋常高等小學校　全　中川原區
全　第二尋常高等小學校　全　幸町
島田尋常小學校　全　向谷

産業狀況

山林面積　〇、千〇四八反歩
畑地　〇、二四〇反歩
田地　四、九七七反歩

重要產額

製材製板　一、五九二、九二九圓
絹及絹綿交織物　九七二、六二八圓
箱類　五〇一、〇〇〇圓

★星名刺

製造元
東京市日本橋區馬喰町二
櫻井商店
電話浪花（代表）五〇〇〇番

特約販賣店
靜岡市北安東三四
櫻井製本所
電話二五六五番
振替東京四六三〇八番

碎木紙料	四七四・三二八圓
米	三一六・七〇八圓
再製茶	三〇九・七〇〇圓
綿織物	一七一・一四八圓
化學製品	一七〇・〇〇〇圓
製茶	一五九・八〇〇圓
其他木製品	一二六・九二九圓
麥	四一・八九六圓

旅館

魚種	島田町三丁目
蔦屋	塚本岩太郎
萬露亭	富岡萬四郎
甘露亭	富岡政平
魚福	濱村孝平
拾紫樓	水野紫郎
朝日屋	村上喜作
藤美亭	谷口藤次郎

全　七丁目
全　大津小路
全　日之出下
全　日之出下

名勝地

神社

大井神社は社格縣社に列せられ島田町一丁目北側にあり老松檜杉鬱蒼として神さびてゐる。祭神は岡象女命、姫大神、埴安美命を祀るが本來は大井川を祀つたものである。境内に園池あり、水石の美亦愛すべきである。

東海道を旅するものはその社前を通り、川根街道を行くものは社側を通らねばならぬ。町内は元より近郷の崇敬甚だ厚く四時參詣人が絶えないが殊に四年目毎の大祭は東海道屈指の大祭であつて全町湧くが如く、神輿供奉の大名行列は全國無比と稱せられてゐる。

向谷　河伯神社（スキノジン）

大井神社の社外末社の一である、位置向谷水門附近大井川岸の山上にあり、眺望甚だよく殊に三四月の頃は山麓の長堤櫻花爛漫として古の墨堤を忍ばしむるものがある

大井川公園

國道大井川鐵橋附近から上流向谷に至る間を大井川公園といふ。園内に小丘あり、竹林あり、松柏の鬱蒼たるあり、小徑その間を曲折し時に亭があつて憩ふことが出來る。ブランコあり、オスベりあり、好適の兒童遊園地である。就中河流に臨む處は大鐵橋を傍にし大井川を隔てゝ白光淡山に對し眺望が甚だよい。

寺院　白岩寺

島田町東郊都智山の中腹にあり黃檗宗の古刹で、古來梅花を以て名高い。

名木　朝顏の松

大井川の畔川原町の堤上にあつて元「朝顏日あきの松」と稱へ見事な大木である。德右衛門の誠忠によつて初めて開いた朝顏の眼に一番先きに見えたのがこの松だといふのである。

靜岡縣榛原郡金谷町

戸數	一、六八二戸
人口	九、〇九二人
役場所在地	金谷町金谷
警察署	全　八軒屋
駐在所	全　金谷
郵便局	全　古横町
小學校	全　牧之原（分）

産業狀況

山林面積	一七四、〇四畝歩
畑地	二三〇、六三畝歩
田地	二四二、七二畝歩

茶　年産額　七一、六八五貫　一九四・四八九圓
米　六、二〇五石　一七七・一五四圓
麥　五三三石　六・一八四圓
蒟蒻玉　一二、〇〇〇貫　四・八〇〇圓
木炭　八七五圓
竹　四〇圓

名勝地

牧之原大茶園　金谷町南　金谷驛より約十二町
國立茶業試驗場　仝　仝　約十五町
巖室公園　仝　北へ二町
菊川の里中納言宗行卿墓　金谷町菊川　驛より二十町
明治天皇御駐蹕趾　金谷町牧之原　驛より八町
城山城趾　仝　三町
城山公園　仝　三町

旅館

金谷町本町中組　小澤屋旅館　小澤てつ
仝　新町　二葉屋旅館　齋藤佐吉
仝　宮崎町　改良亭　櫻井昇

靜岡縣志太郡大長村

戸數　六四五戸

人口　三、九〇〇人

役場所在地　大長村伊太字笹ケ久保
駐在所　仝　相賀（オホカ）字渡口（ドグチ）
郵便局　島田町向谷郵便局管內
小學校　伊太、相賀、神座

産業狀況

山林面積　一、七四九町八反
畑地　一七八町三反
田地　一、一七七町四反
茶年産額　一二、〇〇〇貫　五七・三〇〇圓
米　三、八八〇石　一二四・〇〇〇圓
材木　七、〇〇〇尺〆　四二・〇〇〇圓
炭　八八、二〇〇貫　二〇・一八〇圓
椎茸　一、九二〇貫　一五・三〇〇圓
麥　一、〇〇〇石　一二・〇〇〇圓
柑橘　五〇、〇〇〇貫　一八・〇〇〇圓
蠶養　四五〇貫　三・八〇〇圓
柿　二〇、五〇〇貫　二・二〇〇圓
竹　二、五〇〇東　二・二五〇圓

名勝地

寺院

大長村旅指（ハタサシ）（島田町中溝より十五町）青原山　靜居寺（ジヤウコジ）
永正七年今川駿河守龍因開基、天桂和尚を中興の祖とし曹洞宗の古刹である。

老樹

大長村伊太字則氏（ノリヨウヂ）（島田町向谷より十町）虛無僧櫻
則氏屋敷といふにあり頗る古木である。

神社

仝村　相賀高見澤（渡口（ドグチ）より二十町）高山　白山神社
建久二年の創建
仝村　神座（カンザ）　大井神社

窯跡

仝村　神座字瓶山　祖父壞、祖母壞といふ。
古代に於て陶器を製作した地である。

眺望

仝村　赤松　大井川の曲流する處で眺望甚だよろし。
仝村　相賀渡口　惠比壽森　楠大木二本。
一本は周圍二丈四尺他二丈二尺、元は根本に惠比壽が祈つてあつたといふ。

鑛　泉
全村　伊太東川根　伊太温泉

旅　館
大長村神座　大長旅館
大長村伊太東川根　伊太温泉旅館

道案内人
伊太大鳥笹久保方面　小澤勝平
全　上相賀方面　伊藤靖
神座方面、鵜網方面　權田勘六
横田川次郎右衛門

靜岡縣榛原郡五和村

戸　數　九九五戸
人　口　六、二八八人
役場所在地　五和村竹ノ下
駐在所　全
郵便局　全　横岡
小學校　ナシ（金谷郵便局管内）
竹ノ下、大代（分）福用、（分）

産業狀況

山林面積	二、三〇〇町歩	
畑地	二三七町歩	
田地	三三〇町歩	
米年産額	六、三七〇石	一八〇、三〇〇圓
麥	二、五〇〇石	二九、四〇〇圓
茶	九一、六〇〇貫	二五七、七〇〇圓
木炭	一五四、〇〇〇貫	三六、七〇〇圓
木材		二六、六〇〇圓
竹	七、四〇〇束	四、三〇〇圓
椎茸	二〇〇斤	三、二〇〇圓
蒟蒻玉	一、八〇〇貫	七、五六〇圓

全村產業別生產額

農產		五三一、二三四圓
畜產		一一、四六〇圓
林產		八七、九〇〇圓
鑛產		五、二〇〇圓
工產		七六、五〇〇圓
外		二〇〇圓
計		七〇六、四九一圓

名勝地
瀑　布　大垂瀧及細垂瀧　五和村高熊白光山北面中腹
　高熊及福用より一里二十町
寺　院　日限地藏尊　五和村島大井川鐵道島停留場より五町
古墳趾　五和村横岡八幡宮東側大井川鐵道横岡驛より一丁
陶窯趾　全所西方約三町
神　社　白山神社　五和村大代竹（オホジロ）の下停留場より一里半
　大代御料大森林　全
　白光神社　白山神社大代御料林を經て竹ノ下より
　三里、福用トリ一里
志戸呂燒　五和村横岡大井川鐵道横岡驛より八丁、志戸呂燒は
　德川時代小堀遠州が推稱したので、當時は陶戸が七
　八戸あつたが今は衰へて僅かに只一戸存するのみで
　ある。

旅　館

五和村福用　大池彦左衛門
仝　山下重吉
仝　山下米吉
仝　高熊　瀧山榮吉

道案内人

白光山方面　五和村高熊　杉本保
白光山、大代山方面　仝　大代　小山龍吉

靜岡縣志太郡伊久身村

戸數　四五〇戸

人口　二、三〇〇人

役場所在地　伊久身村犬間
駐在所　仝　小川
郵便局　仝　身成字原八坂
小學校　仝　小川
仝　身成字原八坂
仝　小川

産業狀況

山林面積　三、三九一町歩
畑地　一、一七七町歩
田地　四八町歩
茶年産額　二七、〇〇〇貫
木炭　一二三、〇〇〇貫
用材　一一、〇〇〇石
椎茸　一三、〇〇〇斤
竹　三、〇〇〇束

旅館

伊久身村小川　橋本屋　橋田龜太郎
仝　中平　淺羽屋　淺羽久四郎
仝　川口　富澤屋　富澤けい
仝　身成堀之内　清水屋　清水芳藏
仝　坂下　屋平口　譽

道案内人

中平　奥田卓司
川口　石田平次
鍋島　大石貞一　堀之内　西野梅吉
渡島　森下信吉

靜岡縣榛原郡下川根村

戸數　八〇〇戸

人口　四、九四二人

役場所在地　下川根村家山
巡査部長派出所　仝　所
駐在所　仝　抜（マヽ）里〃
郵便局　下川根村家山
小學校　家山、石風呂、峰（鹽本）

産業狀況

山林面積　四、五〇〇町歩
畑地　二五〇町歩
田地　四〇町歩
茶年產額　一〇三、七五一圓
木炭　三九、五〇〇圓
米　二四、七八二圓
椎茸　三〇、〇〇〇圓
用材　一九、五七〇圓
麥　一二、三四二圓
甘藷　一〇、〇〇〇圓
里芋　一〇、〇〇〇圓
川魚（鯉、鮎、鰻等）　一〇、〇〇〇圓
竹　二、七二〇圓

569
172

名勝地

池沼　下川根村家山　野守の池　静岡新報社募集静岡山梨十二勝ノ一

塚　仝　村家山　野守塚

寺趾　仝　村家山　正福寺夢窓國師開基

寺院　仝村と周智郡三倉村との境　大日山金剛院

瀑布　大日山に至る途　矢垂の滝（高さ三十尺）家山より約十町

眺望　鵜山　援里石風呂間大井川風景

旅館

下川根村家山本通り　可愛樓　森下剛太郎

仝　郵便局前　朝日屋　朝比奈耕平

仝　駐在所　美澤屋　八木啓次郎

仝　郵便局　杉田屋　杉田泰次郎

仝　村島屋　森屋　森山森一郎

静岡縣志太郡德山村

戸数　五三五戸

人口　二、九四六人

役場所在地　德山村田野口

巡査部長派出所　仝　堀之内ヲ地名

駐在所　仝　堀之内

郵便局　仝　堀之内

静岡區裁判所德山出張所　仝　堀之内、田野口（分）

小學校　壹町河内（分）下泉、地名

産業狀況

山林面積　三、〇五九町歩

畑地　一六五町歩

田地　三二町歩

茶年產額　二五、〇〇〇貫

用材　一三七・五〇〇圓

木炭　一〇、九二二石　六二・三四二圓

炭竈　三三、九〇〇貫　八・四七五圓

薪炭　一、九九七貫　一二・二七四圓

椎茸　二二〇棚　九・二四二圓

竹　三、六六五貫　三〇・〇五〇圓

柿　三、六三七束　六・七五〇圓

蒟蒻玉　九、〇〇〇貫　一・七〇〇圓

發電所　八〇〇貫　二八〇圓

所在地　德山村地名

東海紙料株式會社經營　三、五〇〇馬力

索道

所在地　德山村地名

志太郡藤枝町方面に通ず

名勝地

瀑布

不動瀧　德山村下泉字小河内（下泉より二十町）高さ百五十餘尺古來より名高し。

城趾

堀之内東方本城山（無隻連山）にあり、德山城主土岐山城守の子小長谷和泉守清間の築城せる跡である。堀之内より一里十町。

屋敷跡

吉野朝の忠臣土岐氏の屋敷跡で今、森の段といひ堀之内の中央高臺である。

寺院

德山村堀之内　大泉院（曹洞宗）

旅館

德山村地名	岡村屋
仝	酒井屋
仝田野口	文久
仝堀之内	南屋
仝	駿河屋

道案内人

赤石岳方面	德山村堀之内 長濱初之助
仝	仝 袴田三郎
寸又川及大井川一圓	仝 地名 望月明治郎
不動瀧方面	仝 下泉 勝山平四郎
本城山方面	仝 堀之内 加鹿鎭雄

靜岡縣榛原郡中川根村

戸數 九〇〇戸

人口 五、五〇四人

役場所在地	中川根村上長尾
駐在所	仝 上長尾
仝	仝 下長尾
郵便局	仝 上長尾
小學校	上長尾、久野脇、水川 久保尾、下長尾、藤川

産業狀況

山林面積	三二・二六八反
畑地	二・八〇六反
田地	三三八反
茶年産額	一五二・〇八八圓
木炭	一〇二・五〇〇圓
椎茸	三五・〇〇〇圓
竹	三・八〇〇圓
蒟蒻玉	二・〇〇〇圓
其他	四八・七〇六圓

名勝地

上長尾	千葉山智滿寺
藤川	慈眼山觀天寺
下長尾	塚ノ山

旅館

上長尾	梅野屋
高郷	たばこや
藤川	藤見屋
下長尾	野口屋
下長尾	山田屋

道案内人

藤川山方面（榛原川上流蕎麥粒山方面）	中川根村藤川 中村光四郎
熊切村山地方面	下長尾 中野嘉一

靜岡縣志太郡東川根村

戸數 五〇〇戸

人口 二、九七九人

役場所在地	東川根村藤川字小長井
駐在所	仝 所
郵便局	局なし（對岸千頭局管内）
小學校	東川根村藤川、青部（分）

産業狀況

山林面積（民有地）	六・五六〇町歩
畑地	二一九町歩
田地	七町四反歩
茶年産額	二一・五〇〇貫
木炭	八五・〇〇〇貫

565
172

用材　一五・五〇〇石
椎茸　六・〇〇〇斤
養蠶　四・〇〇〇貫
竹　三・〇〇〇束
蒟蒻玉　三・〇〇〇貫

名勝地

城跡　東川根村藤川字小長井（現東川根小學校の臺地）
　小長井より五町

神社　智者山神社と智者山々林
　神社は東川根村藤川、小長井より一里十町、山林の經營を以て名高い智者山にある。智者山々林は農林省推賞の模範林で常に參觀者が絶えない。經營者小野田氏は營林に熱心なのみならず非常な信仰家である。

天狗石山　東川根村藤川、小長井より二里十八町、智者山と並立した一〇二四米の高山である。

瀑布　不動滝　東川根村田代　田代より一町

旅館

東川根村小長井　松下屋　松下丈右衛門
仝　山本屋　山本彌一
仝　宗高屋　横山善一
仝　田代　大正館　神谷茂一
仝　梅地　佐藤館　佐藤喜作

道案内人

天狗石、智者山、洗澤及平棄、接岨方面　東川根村藤川小長井　山口嘉平
大澤、谷畑、桑野山、川井方面　仝　中澤隆一

栗尾、海久保、梅地方面　仝　梅地　久保島彌次郎
接岨方面　仝　後藤卯之助

靜岡縣榛原郡上川根村

戸數　四〇四戸

人口　二、三二七人

役場所在地　上川根村千頭
駐在所　仝
郵便局　仝
帝室林野管理局千頭出張所　仝
小學校　千頭、崎平（分）、大間（分）東側（分）奥泉、長島

産業狀況

山林面積　四、四四三、三〇二〇町歩
畑地　一三九、六七二四歩
田地　四、〇六一九歩
茶年產額　一一・四〇〇貫
木炭　二四〇・〇〇〇貫
繭　四・〇〇〇貫
蒟蒻玉　一・四〇〇貫
椎茸　五・〇〇〇）斤
竹　一・二〇〇束

名勝地

發電所　小山發電所　東京電燈株式會社經營　奥泉村小山
温泉　湯山温泉　大間より約二十町にして湯山温泉がある。温度はやゝ低いが諸病に効あり、夏期は相應に客がある。

569
172

瀑布　湯山瀧　湯山温泉から約一町にて高さ百餘間あり甚だ壯觀である。

釣橋　大釣橋　上川根村千頭と東川根村小長井間に架けられた大鐵線橋で、同時に數千人の通行が出來得る程である。

旅館　上川根村千頭　清水館　鈴木秀雄
仝　遊仙樓　榎田元吉

道案内人　大無間山方面一帶　上川根村東側　望月勘一郎
天狗石山方面一帶　上川根村犬間　長島平次郎

千頭御料林

榛原郡上川根村千頭帝室林野局出張所管轄

範圍　上川根村大字千頭、犬間及奥泉並に中川根村藤川に跨る

面積　二四・三八六町歩

著名なる山岳

光岳	二五九一米	椹澤山（信濃俣）二三三一米	
大根澤	二二三九米	大無間山	二三二八米
朝日岳	一八二六米	加々森山	二四一八米
池口岳	二三七五米	鶏冠山	二二四八米
合地山	二一〇四米	諸ノ澤山	一七四九米
中尾根山		黒澤山	
不動岳	二一七一米	丸盆岳	
黒法師岳	二〇六七米	前法師岳	一九四三米

著名なる河川　大間河内　寸又川本流　下西河内　上西河内　逆河内　柴（クリシロ）栗代河内　澤　大根澤　小根澤　澤　關ノ澤

寸又川は溪谷甚だ深く清流澄徹處々に瀑布懸り鮎の名産地である。千頭から寸又川の溪流に添ひ行くこと五里にして湯山温泉がある。湯山温泉は大井川寸又川流域中唯一の温泉であり避暑地である。温泉は温度が餘り高くないが諸病に効験が著しい。

夏期此の温泉を根據地として寸又川の探勝、千頭御料地の諸峰や、萬古斧鉞を加へざる大森林の跋渉は興味津々たるものがある。

梅地御料地　志太郡東川根村梅地々内　面積　一・八一一町歩余

靜岡縣安倍郡井川村

戸數　約三五〇戸

人口　約一、七五〇人

役場所在地　井川村井川
駐在所　仝
郵便局　仝
小學校　井川、田代（分）、口坂本（分）

産業狀況

山林面積	二七、九九一町九七畝	
畑地	一、四六八町九四畝	
田地	四町一五畝	
年産額	茶	二三、〇〇〇圓
	用材其他	二五〇、〇〇〇圓
	木炭	一二、〇〇〇圓
	竹	三五〇圓

569
172

椎　茸　二五・〇〇〇圓

名勝地

本村は其位置接嶋峽以北、白根山脈と赤石山脈とに亙る南北十數里の大村であつて、大井川最上流と日本南アルプス一帶の名勝地は殆んど悉く全村にある。

旅館

井川村井川　大西屋　海野由二
〃　橋本屋　森竹鶴吉
〃　田代ますや　瀧浪益吉
〃　沼平　佐野屋　佐野平作
〃　椹島　高砂屋　高橋龜吉
〃　かじや　荒尾保一
〃　築地榮次郎

道案内人

日本南アルプス一帶　井川村田代　瀧浪富士太郎
〃　大島　瀧浪要太郎
〃　瀧浪七郎次
〃　大村角雄
〃　白鳥松好

靜岡縣志太郡笹間村

戸數　三一五戸
人口　二、二二五人
役場所在地　笹間村石上
駐在所　〃
郵便局　〃
小學校　石上、篠上（分）、上河内（分）日向（分）、西向（分）

産業狀況

山林面積　七・〇〇〇町歩
畑地　一二町歩
田地　六七・〇〇〇圓
養蠶年産額　六〇・〇〇〇圓
椎茸　四四・〇〇〇圓
茶　三〇・〇〇〇圓
木炭　一・〇〇〇圓
竹　一・〇〇〇圓
蒟蒻玉

名勝地

〇宇峠　瀧　瀬戸川上流にて石上より一里
大澤溪谷　笹間川上流の溪谷奇岩清流紅葉を以て名高し　石上より五町

旅館

笹間村石上　小島鐐吉

物價及宿泊料其他

運賃其他の關係により各地同一ではないが旅行者に必要な範圍のものを掲ぐれば大略左記の樣である。

一、宿泊料　靜岡市、島田町、金谷町　略金貳圓以上
其他一圓二十錢　一圓三十錢　一圓五十錢
一圓七十錢　二圓位まで
島田、金谷　八十錢以上
其他　二十五錢　三十錢　四十錢
五十錢位まで
一、ビール　四十五錢　五十錢　五十五錢　六十錢
七十錢　八十錢　一圓位まで
一、サイダー　二十錢　二十五錢　二十八錢　三十錢
三十五錢　四十錢位まで
一、米一升　三十二錢から、椹島附近では六、七十錢
一、草鞋　一足八錢位から十五錢位まで

569
172

一、雑誌其他日用品は何れの楽落でも購求することが出來る便宜がある。

一、案内人及持子　日當　一日　二圓位
（但し宿泊料食費等は雇主負擔）
當地方には未だ案内人持子等の組合も無し、賃金其他の協定も出來て居ないから各地の旅館又は駐在所或は役場等に依頼して雇入れることがよい。

本案内記發行に付て御援助下されし左記方々の御厚意を謹んで感謝致します。

靜岡縣金谷町	大井川鐵道株式會社殿
北海道札幌市	三星藥品株式會社殿
東京市	ライオン齒磨本舖殿
仝	日本麥酒鑛泉株式會社殿
靜岡市	吉見書店殿
仝	谷島屋書店殿
仝	太陽堂書店殿
仝	東京堂書店殿
仝	田丸屋本店殿
仝	岩本漆器店殿
仝	櫻井製本所殿
仝	すみや電氣株式會社殿
清水市	濱田由藏商店殿
榛原郡五和村	五和銀行殿
志太郡德山村	地名信用購買販賣組合殿
仝 大長村	伊太信用購買販賣組合殿
仝 大長村	白山神社々務所殿
靜岡縣島田町	大井神社々務所殿
仝	島田高等裁縫女學校殿
仝	島田自動車組合殿
仝	つたや旅館殿
仝	魚種旅館殿
仝	ことぶき紺屋殿
仝	澤田株式店殿
仝	仁科文學堂殿
仝	村松發動機製作所殿
仝	虎岩醬油店殿
仝	司馬外科醫院島田分院殿

569
172

昭和三年十月十日初版發行
昭和四年六月五日再版印刷
昭和四年六月十日再版發行

實價 金六拾錢

不許複製

靜岡縣島田町
編輯者 蘭契會

靜岡縣島田町六二五番地
印刷所 渡邊印刷所

靜岡縣島田町
發行所 島田保勝會

西岡内科醫院殿
島田製茶問屋殿
杉本隆五郎殿
近藤木工所殿
大井川通船組合殿
島田表裝師組合殿
體育堂運動具店殿
小林製材所殿
嘉十藥局殿
榛原郡金谷町 金谷合同運送株式會社殿
〃 五和村 丸三合同運送店殿
靜岡市 荒木書店殿
靜岡縣島田町 福鐵製作所殿
〃 魚福旅館殿
〃 細島屋殿
〃 吾妻紺屋殿
〃 稻葉紺屋殿
〃 鶴ヶ谷信用購買販賣組合殿
〃 甲賀銅鐵店殿
〃 めぐみや書店殿
〃 いろは堂書店殿
〃 山下商店殿
〃 ライオンテーラー殿
〃 九島商店殿
〃 河邊紡績株式會社殿

靜岡縣島田町
島田保勝會